

岩手県文化財調査報告書 第97集

岩手県内遺跡発掘調査報告書
(平成6年度)

平成7年3月

岩手県教育委員会

序 文

埋蔵文化財は、私たちの祖先より永く培われてきた貴重な歴史的財産であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき・活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、遺跡の性格・所在地・範囲を正確に示すことが必要であることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、現在県内で確認されている遺跡数は9,000余箇所にも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成6年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。

平成7年3月

岩手県教育委員会

教育長 橋田 純一

例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成6年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の推定範囲については網で示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局文化課の小田野哲憲主任文化財主査、熊谷常正文化財主査、佐藤嘉広文化財調査員が担当した。なお、整理については、下記の方々のご協力をいただいた。
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、千田和博、菅原絹子、今 明子
- 8 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目 次

序文

例言

I 発掘調査

- 1 ほ場整備事業愛宕南部地区（力石II遺跡）……………3
- 2 県営農村活性化住環境整備事業大桜地区（大桜遺跡）……………17
- 3 広域農道整備事業盛岡西部地区（弓打沢遺跡）……………21
- 4 北上川中流築堤工事花泉日形地区（中神四日市遺跡）……………23
- 5 一般県道相去飯豊線相去地区道路改良事業（前稗沢遺跡）……………25
- 6 県立大学整備事業（巢子III、IV遺跡）……………28

II 試掘調査

- 1 県営ほ場整備事業小友地区（椀ノ木II遺跡）……………33
- 2 かんがい排水事業一方井地区（倍田遺跡）……………34
- 3 広域農道整備事業盛岡西部地区（間洞II遺跡）……………35
- 4 ふるさと農道緊急整備事業目名市地区（目名市遺跡）……………36
- 5 ふるさと農道緊急整備事業紫波中央地区（日詰七久保遺跡）……………37
- 6 畑地帯総合土地改良事業藤崎地区（相ノ沢遺跡）……………38
- 7 岩手県農業研究センター県北農業技術センター関連（和当地I遺跡）……………39
- 8 大船渡三陸道路建設事業（久保遺跡）……………40
- 9 国道4号金田一バイパス建設事業（荒田III遺跡）……………41
- 10 大船渡三陸道路建設事業（山ノ内遺跡）……………42
- 11 一般国道281号道路改良明通地区（明通II遺跡）……………43
- 12 一般県道花巻田瀬線凍雪害防止工事（中野D遺跡）……………44
- 13 主要地方道弥栄金成線緊急整備事業（下館銅屋遺跡）……………45
- 14 一般国道343号道路改良事業鳶ヶ森地区（板倉遺跡）……………46
- 15 その他の試掘調査……………47

III 分布調査……………49

一般県道宮古岩泉線道路築造事業

主要地方道軽米名川線道路改良事業

綾里川ダム建設事業

主要地方道上米内湯沢線手代森工区

ほ場整備事業長岡地区

担い手育成基盤整備事業宮野目地区

主要地方道盛岡環状線上太田地区

一般国道395号小軽米バイパス事業

遠野第二ダム建設事業

担い手育成基盤整備事業赤沢川地区

一般国道281号明通地区道路改良

一般県道志和石鳥谷線田屋地区

障害防止対策事業一本木用水路
担い手育成基盤整備事業大巻地区
築川ダム建設事業
二戸警察署警察官待機宿舎
一般農道整備事業松ヶ沢地区
一般国道4号渋民バイパス事業
かんがい排水事業一方井地区
主要地方道大船渡広田陸前高田線改良事業
凍雪害対策工事一般県道土淵達曾部線
ふるさと農道緊急整備事業鳥居長根地区
一般国道340号特殊改良事業

ふるさと農道緊急整備事業和乙茂地区
岩手大学宮古臨海研修施設建設
主要地方道二戸安代線改良事業
中山間地域農村活性化事業陸中なついで地区
農業農村整備事業鳥海地区
中山間地域農村活性化事業新町地区
中山間地域農村活性化事業若柳西部地区
一般国道396号上綾織地区
一般国道343号道路改良事業
市町村整備代行事業津谷川線
中小河川改修事業岩崎川流域

I 発掘調査

時には粘性がなくよく締まるが、水分を含むと粘性に富む。礫などは原則として含まない。

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡14棟、土坑3基、ほか井戸跡や柱穴跡などである。

1号住居跡（第4、5図）

調査区の北東で検出された。大部分はすでに破壊されており、カマドも失われていた。焼失住居であるため遺構の確認は容易であった。埋土下層に含まれる炭化物の量が増加する。床面は全体に貼り床されていたと考えられ、粘性に富むシルトが全体に互って認められた。比較的軟らかい。北側壁面近くに、柱穴跡と考えられる小さな円形の掘り込みが認められた。

出土遺物は土師器・須恵器である。第5図2、4は床面直上から出土したもので、本住居跡の埋没開始年代を示すものと考えられる。

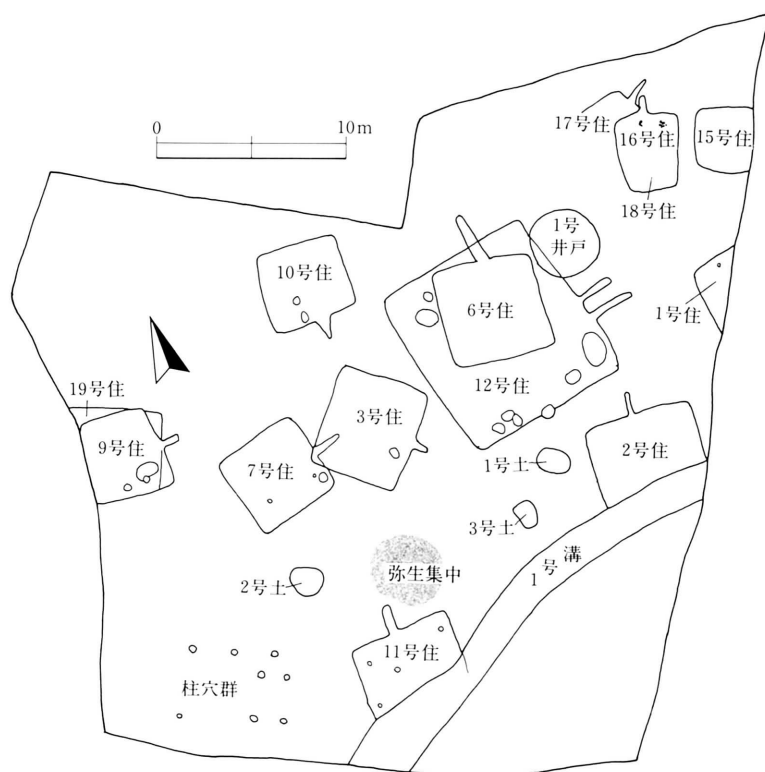
以上から判断し、本住居跡は8世紀後半ごろの廃絶と考えられる。

2号住居跡（第4、5図）

調査区の東側で検出された。南側部分は、近世以降の水路跡と考えられる溝跡によって破壊されている。また、上部が削平されていたため残存していた壁高が5cm程度であり、遺構としての残りは良くない。カマドは北壁ほぼ中央付近に作られ、燃烧面では良く焼土が形成されていた。煙道は床面上約2cmより延び、煙出し部分が深く掘り込まれている。焼土脇には柱穴状の遺構が検出された。床面は軟らかい。

埋土中より、土師器甕、坏、蓋などが出土している。坏は非ロクロの内黒で、外面に縦のケズリ調整がなされている。底部はほぼ平坦に仕上げられる。蓋は直立するつまみを有するもので、両面黒色処理されている。他に、あかやき坏が出土している。

以上より、本住居跡の廃絶年代は、8世紀末頃と考えられる。



第3図 力石II遺跡遺構配置図

3号住居跡（第4図）

調査区ほぼ中央で検出された。7号住居跡と重複し、それより新しい。III層上面でカマドの存在を示す焼土によって住居跡が確認された。しかし、住居跡の掘り込みの確認は困難で、埋土の状況などから判断すると、図に示したものより全体に規模が縮小し、1辺が4m程度になるものと考えている。カマドは東向きで、礫を芯にした袖を構成したのと考えられる。燃烧面では、焼土が形成されている。煙道は短く、煙出し部分に向かって上方に傾斜している。カマド脇には、深さ15cmの方形の土坑が作られている。床面は軟らかいものの、白色の粘土層が確認されたことから、貼り床が成されていたと考えられる。また、南壁付近の床面で、本住居跡の周溝と考えられる深さ5cmの溝が検出された。

出土遺物は土師器・須恵器であるが、いずれも小片である。坏の形態などから、9世紀後半の住居跡と考えている。

6号住居跡（第4、7図）

調査区中央やや北側で検出された。12号住居跡と重複する。カマドを12号住居跡と共有していることから、12号住居跡の一部に過ぎない可能性もあるが、ここでは調査時の所見から、一応独立した住居跡として報告する。カマドは北壁ほぼ中央に作られ、シルトを固めて袖を作っている。燃烧面ではわずかに焼土が形成されているが、袖の外側にまで広がり乱れている。煙道は壁面と85度の角度で北側に延び、煙出し部分に向かって深く掘り込まれている。煙出し部分は円礫および土器が集中し、何らかの施設があったことが予想される。遺物は、カマドから煙道に掛けて集中的に出土する。柱穴跡などは認められなかった。

出土遺物は土師器甕、須恵器坏、あかやき坏、棒状の鉄製品などある。甕は非ロクロ成形のもので、口縁部が強く外反する。坏はいずれも底径の大きなもので、ロクロヘラ切りのものである。

出土遺物と12号住居跡との関係などから、本住居跡は9世紀前半であると考えられる。

7号住居跡（第6、7図）

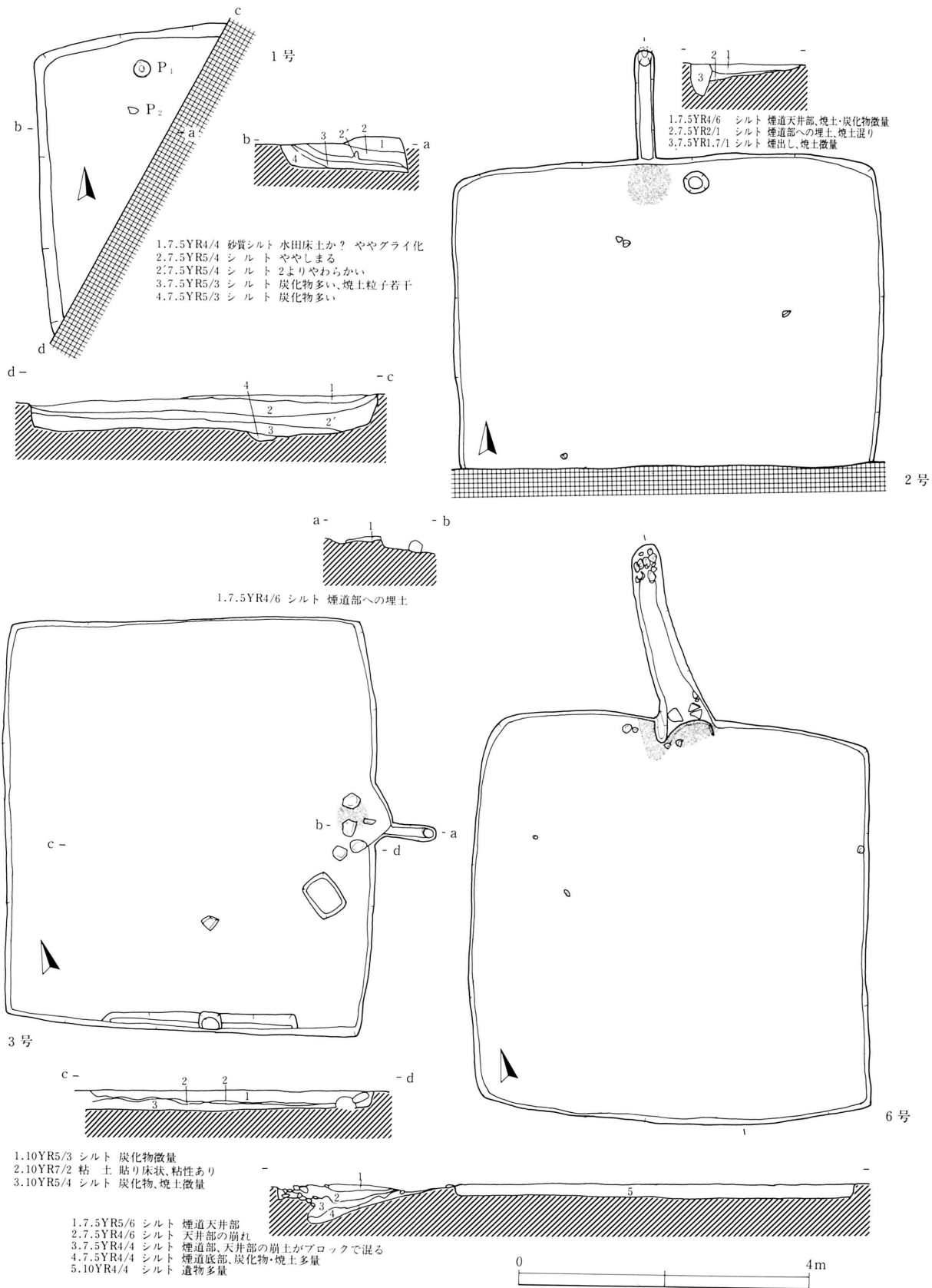
調査区中央やや南西寄りで検出された。長軸5m程度の隅丸長方形を呈している。住居跡南側が試掘の際のトレンチで大きく掘り込まれている。3号住居跡床面下に煙道が延びることから、それより古いものである。カマドは東壁中央に作られる。燃烧面では硬く締まった焼土が2か所形成されることから、カマドのつくりかえが予想されるが、調査では十分に把握できなかった。袖もまたシルトを固めて作られたもので、埋土との識別が困難であった。煙道はほぼ東に延び、煙出し部分が最も深く掘り込まれている。煙出し部分は小礫によって構築されていた。床面は全面粘土質の貼り床がなされ、やや固くしまっていた。柱穴状の掘り込みは3か所に認められたが、いずれも浅いものである。南東隅に住居跡に付随する小土坑が認められた。遺物はほとんどがこの土坑中から出土した。

出土遺物は土師器甕、あかやき坏、塙、須恵器坏、長頸壺などである。甕は非ロクロ成形で体部外面がケズリ調整されるもの、坏はロクロ成形で底部は糸切りもしくはヘラ切りである。

住居跡の年代は、出土遺物などから9世紀半ばと考えられる。

9号住居跡（第6、8図）

調査区西端で検出された、長軸4.5mの不整形を呈する。19号住居跡と重複しそれより新しいと考えられるが、両者の明確な関係は調査時点では把握できなかった。上部が削平されていたためか、住居の掘り込みは浅く、残存状況は良くない。カマドは東向きで、燃烧面に焼土が形成されているが、袖などその他のカマドを構成する施設は検出されなかった。煙道も同様に浅いが、煙出し部分ではわずかに深くなっている。床面は粘土で貼り床状を呈している箇所が認められたが、全体に軟らかい。柱穴跡などは確認されなかった。



第4図 力石II遺跡竪穴住居跡 (1, 2, 3, 6号住居跡)



第5図 力石II遺跡竪穴住居跡出土遺物 (1~10:1号住居跡, 11~19:2号住居跡)

19号住居跡は、9号と軸を異にした不整形である。カマドは9号と共有した可能性もあり、独自のものは認められなかった。南隅で、小土坑が2基検出されている。

この付近からの出土遺物は、小土坑から出土したものを除き9号住居跡にともなったものと考えられる。土師器甕、坏、鉄鋤先などが出土している。甕はロクロ成形と非ロクロ成形のものがある。6は内面黒色処理した特殊な形態のものである。坏は内黒で、ロクロ糸切りである。底部およびその付近が再調整によって、断面が丸みを持つ。

出土遺物より、9号住居跡は9世紀後半と考えられ、19号は僅かにそれに先行するものであろう。

10号住居跡（第6、8図）

調査区北西部で検出された。長軸4.5mの長方形を呈する。住居跡の掘り込みは現存部分で約10cmである。カマドは南壁やや東寄りに作られる。明瞭な粘土で天井部が構築されていたと考えられるが、袖、支脚などの施設は認められなかった。燃焼面からは煙道部分に焼土が延びるが、焼土の形成は十分でない。煙出しからは須恵器片が出土し、施設が構築されていたようである。床面は全体に硬いが、明確な貼り床は認められなかった。柱穴跡は確認されなかったが、床面で小土坑が2基検出されている。

出土遺物は土師器・須恵器であるが、いずれも小片である。土器のほか、土製勾玉が1点出土している。

住居跡の年代は不明確であるが、8世紀～9世紀ごろに想定されるだろう。

11号住居跡（第8、9、11図）

調査区南側で検出された。1辺5.6m前後の方形を呈していたと考えられるが、南側の一部が後世の溝跡によって大きく破壊されている。焼失住居であり、炭化材が良好に残存していた。床面までの掘り込みは約30cm残存しており、比較的良好である。カマドは北壁ほぼ中央に作られ、両袖は土師器甕を芯としてシルトで構築している。煙道はカマド付近でわずかに下がるが、ほぼ水平に煙出しへ延びる。煙出し部分は深く掘り込まれる。断面がやや中膨みとなる。燃焼面では良く焼土が形成されている。床面は硬く、かなりの部分で貼り床がなされる。中央ややカマド寄りに、燃焼面が帯状に形成され、特に硬い部分となっている。柱穴跡は3か所確認されている。床面からの深さはいずれも15cm程度である。このほか、小土坑が2基確認された。

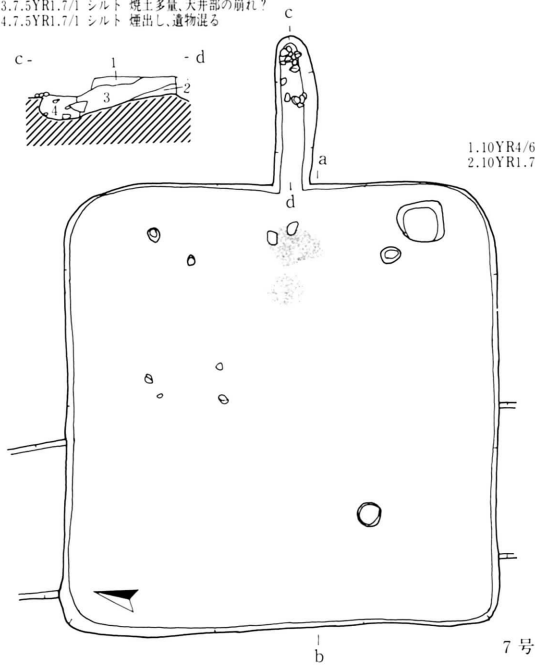
遺物は特にカマド付近で多量に出土し、土師器甕、壺、坏、須恵器片、鉄製紡錘車、砥石、ルツボである。土師器甕及び坏はいわゆる国分寺下層式のものである。坏は内黒で、外面下部に僅かに沈線状の痕跡を有し、底部付近はケズられる。壺は須恵器短頸壺を模したもので、雑なケズリによって外面が調整される。砥石は砂岩系の石材を使用し、4面とも相当使用されている。ルツボは内面に鉾滓を付着させている。

出土遺物などから、この住居跡の廃絶年代は8世紀後半と考えられる。

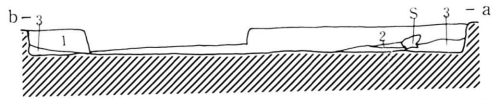
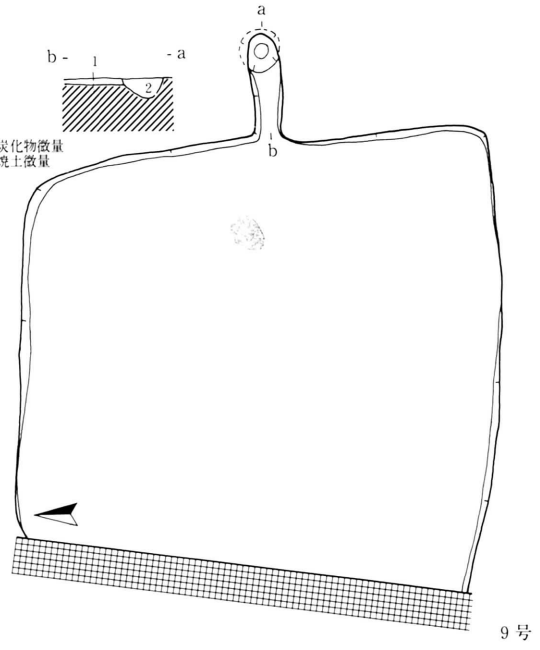
12号住居跡（第10、11図）

調査区中央やや北東寄りで検出された。長軸9.6mほどの長方形を呈している。1号井戸跡及び6号住居跡より古い。3基のカマドが付属するが、そのうち北壁に取り付くものは6号と共有したと考えられる。東壁にはやや南寄りに2基のカマドが並ぶが、燃焼部の焼土形成は南カマドに見られ、このカマドが最終段階のもので、北側のカマドは住居跡廃絶時には放棄されていたものと考えられる。煙道は煙出し部分に向かって深く掘り込まれて、煙出し部分は小礫で構築されている。床面は一部貼り床されていたと考えられ、埋土中に灰白色の粘土層が水平に広がる部分が観察された。さらに、貼り床下部に埋土が認められたことから、12号住居の床面の造り替えが行われたと考えられた。南壁寄りには幾つかの小土坑や焼土、粘土などが認められ、そのうち1基は壁より僅かに外側に張り出すものであった。柱穴跡は、北西隅の深さ70cm、長径120cmの土坑が該当していると考えられるが、その他の柱穴は確認されなかった。

- 1.7.5YR5/8 シルト 煙道天井部
- 2.7.5YR4/8 シルト 煙道部への埋土、炭化物微量
- 3.7.5YR1.7/1 シルト 焼土多量、天井部の崩れ?
- 4.7.5YR1.7/1 シルト 煙出し、遺物混る

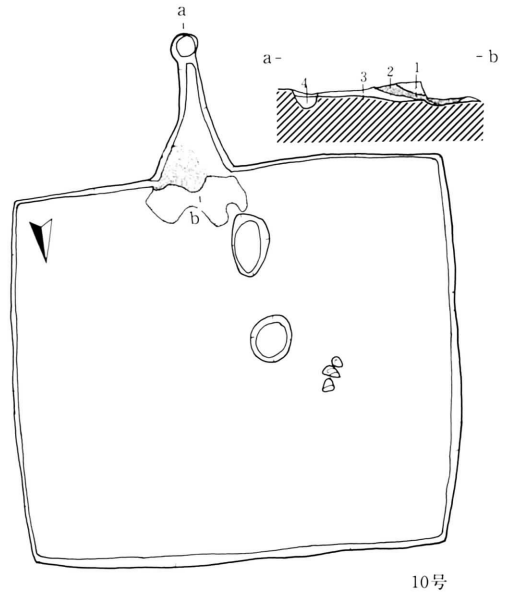
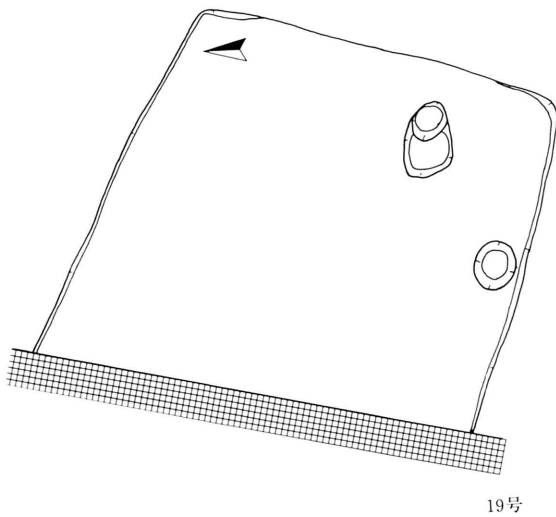


- 1.10YR4/6 シルト 煙道部、炭化物微量
- 2.10YR1.7/1 シルト 煙出し、焼土微量

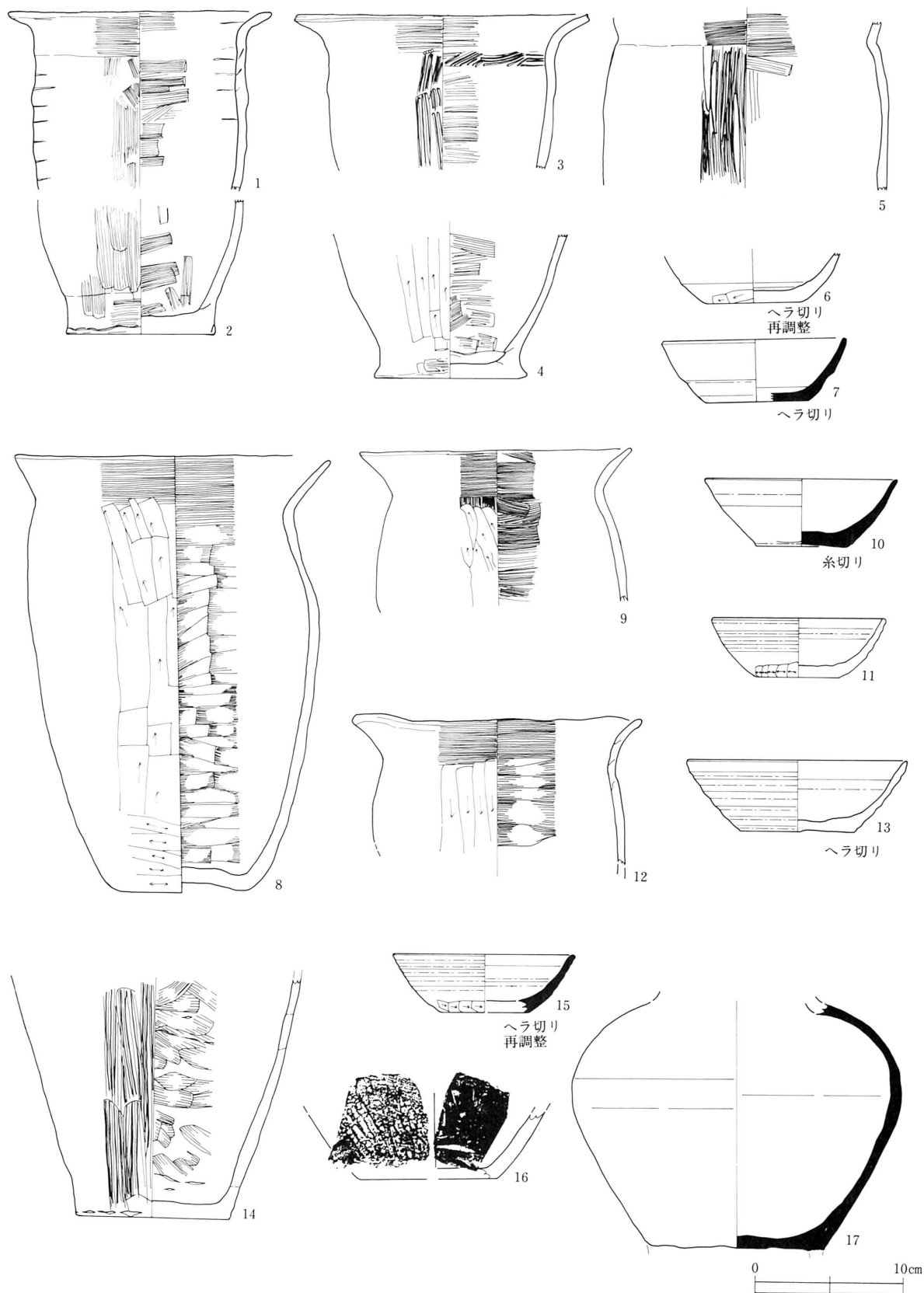


- 1.7.5YR4/8 シルト 炭化物・焼土ブロック微量
- 2.7.5YR3/4 シルト 炭化物・焼土混り
- 3.7.5YR4/4 シルト 壁際の崩れ? 粘性あり

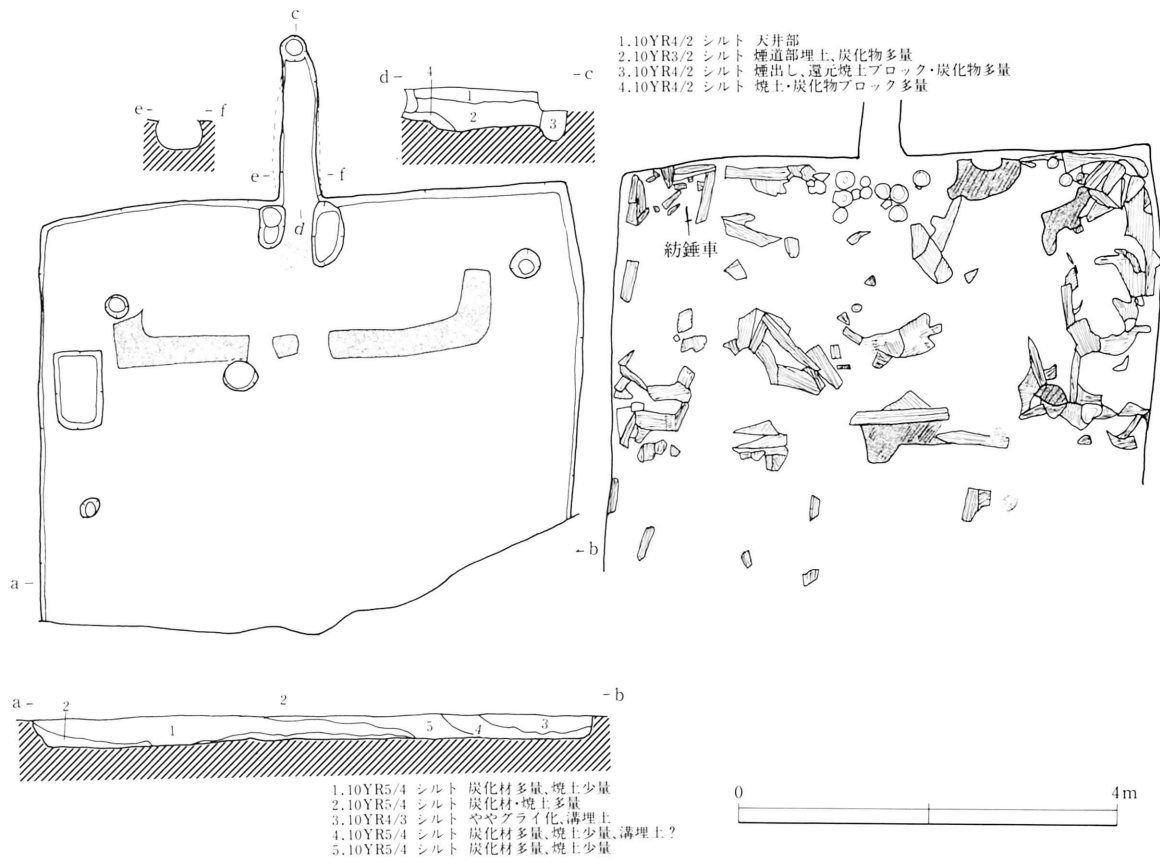
- 1.7.5YR4/6 シルト 炭化物ブロックを含む、カマド構築粘土
- 2.7.5YR3/2 シルト 焼土ブロックを含む、燃焼面に続く
- 3.7.5YR5/8 シルト 煙道部への埋土
- 4.7.5YR1.7/1 シルト 炭化物粒多い、煙出し



第6図 力石II遺跡竪穴住居跡 (7, 9, 19, 10号住居跡)



第7図 カ石II遺跡竪穴住居跡出土遺物 (1~7:6号住居跡, 8~17:7号住居跡)



第9図 力石II遺跡竪穴住居跡 (11号住居跡)

出土遺物は、土師器甕、坏、あかやき坏、埴、須恵器甕、坏、鉄器類などである。

これらの遺物より、本住居跡は9世紀前半頃に属すると考えられる。

15号住居跡 (第11、12図)

調査区北東隅で検出された。1辺が3m程度の隅丸方形を呈している。埋土下部で炭化物が比較的多く見られたことから、焼失住居跡の可能性が高い。カマドは東壁に作られているが、調査区外側ではすでに掘削され残存していない。小礫が多く見られたことから、カマド袖の芯を礫で構成していた可能性がある。床面は粘土で貼り床が行われていたが、全体として軟らかい。中央部に、炭化物が弧状に集中する細い溝がある。柱穴跡は判然としない。

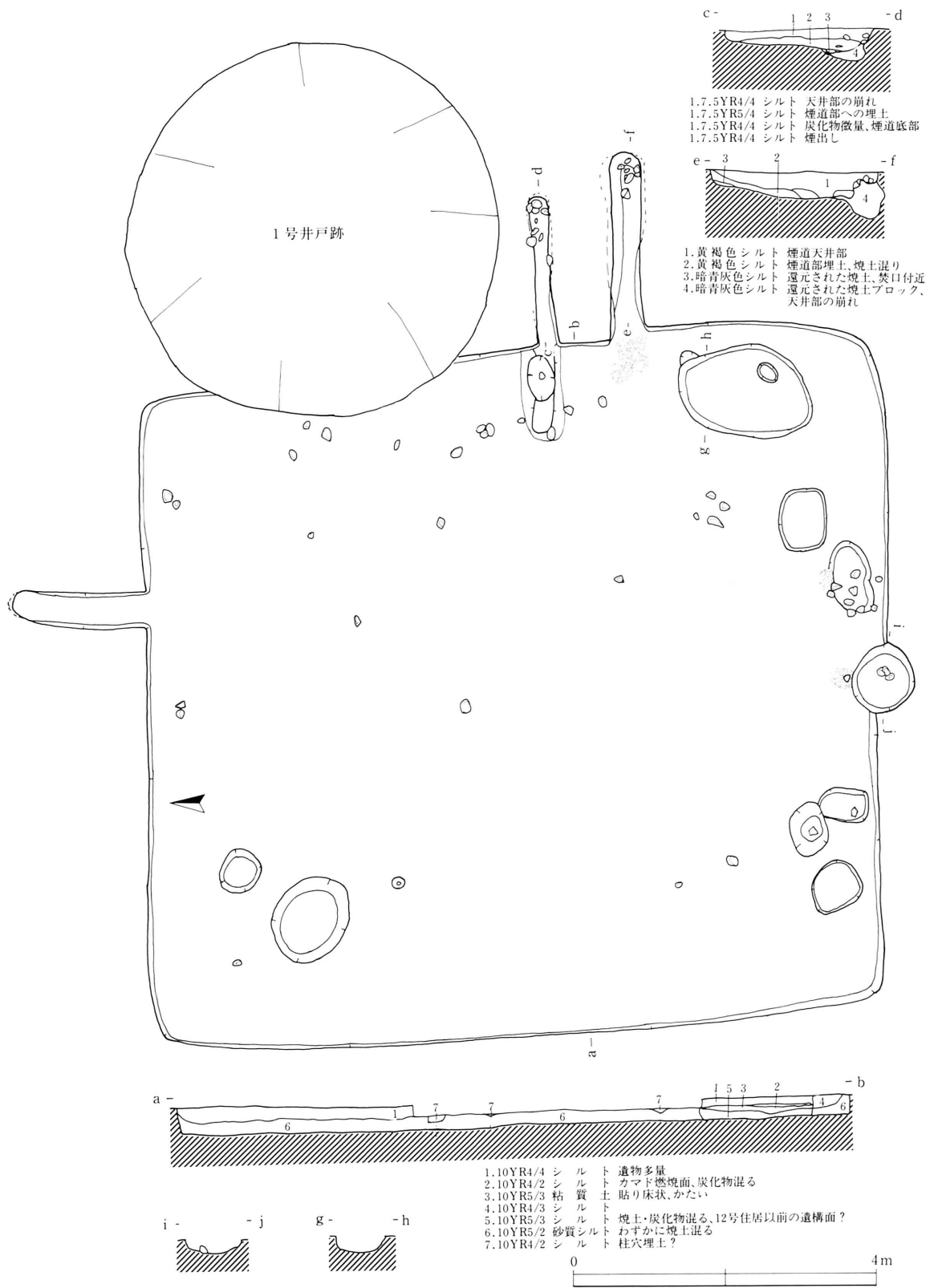
土師器甕、坏、須恵器坏などである。土師器坏には高台を有して内外面が黒色処理される施釉陶器を模したと考えられるものがある。その他の坏にはヘラ切りで底径の大きいものと、糸切りのものがある。

出土遺物より、本住居跡は9世紀後半頃のものと考えられる。

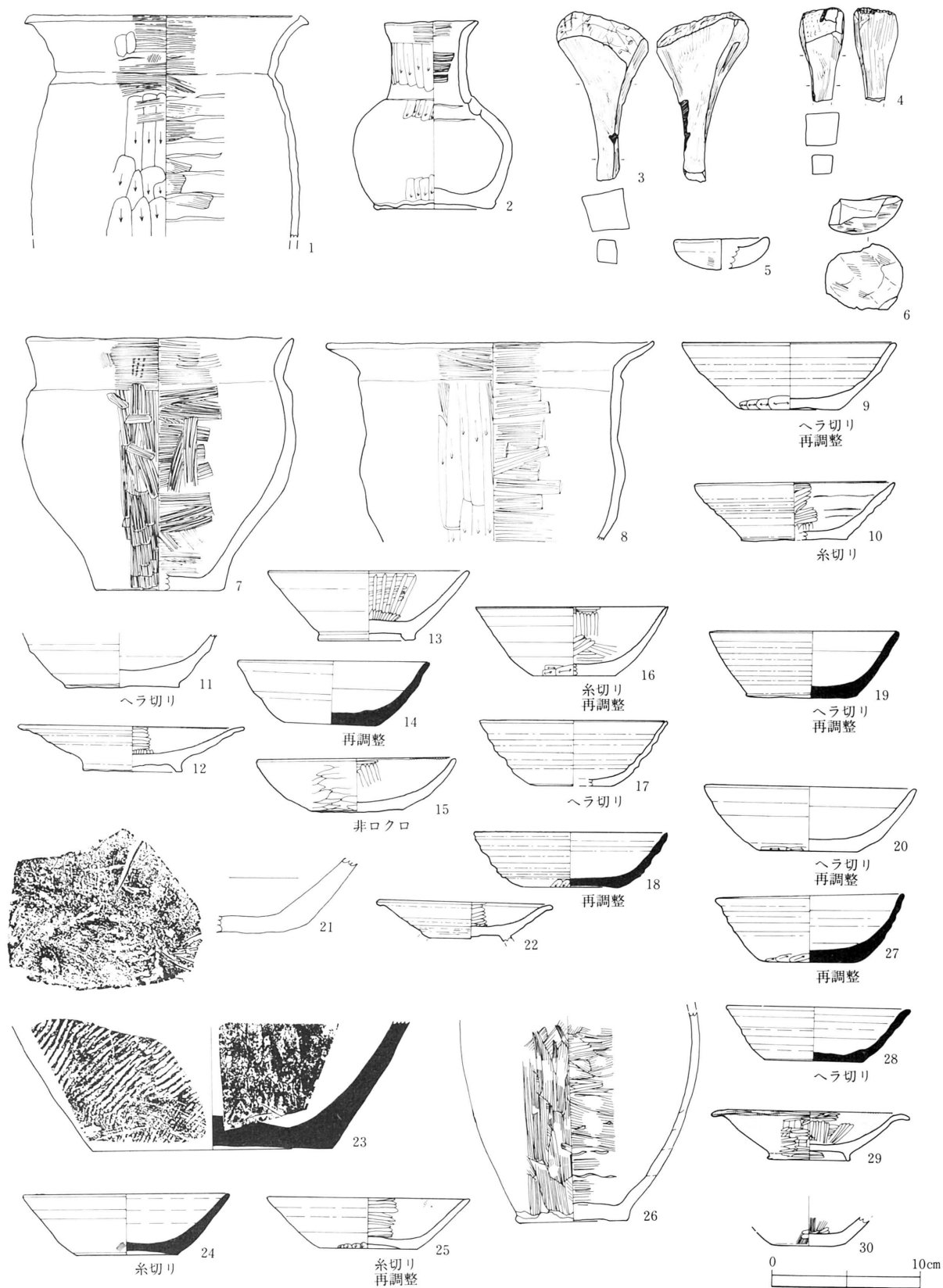
16・17・18号住居跡 (第12、13図)

調査区北側で検出されている。17号と18号は重複し、18号が新しい。16号もこれらと重複していると考えられるものの、調査時は明瞭に識別できなかった。16号はカマドのみの検出である。上部からは遺物がやや出土し、さらにカマド部分でも得られている。土師器、須恵器などである。17、18号はカマド煙道が良好に残存していたものの、燃焼部での焼土の形成は弱く、竪穴の掘り込みも判然としないものであった。煙出し部分は小礫で構成されている。須恵器大甕や砥石が出土している。

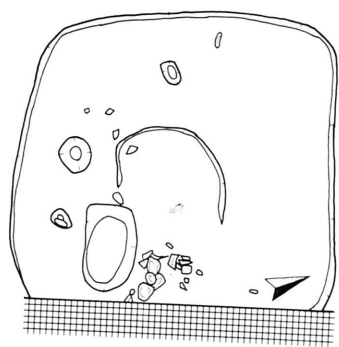
これらの住居跡もほぼ9世紀前半であろう。



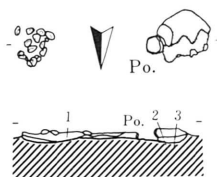
第10図 力石II遺跡竪穴住居跡 (12号住居跡)



第11図 カ石II遺跡竪穴住居跡出土遺物 (1~6:11号住居跡, 7~23:12号住居跡, 24~30:15号住居跡)

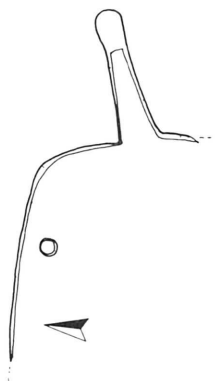


15号

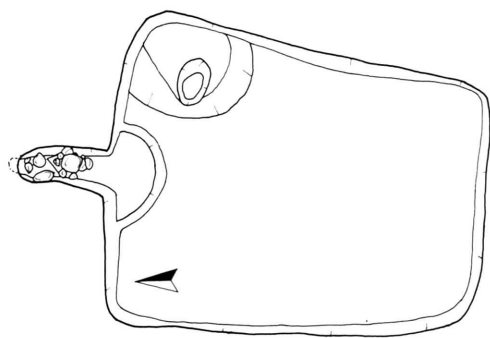


- 1.黄褐色シルト 煙道部、焼土・炭混り
- 2.黄褐色シルト 燃焼部付近、焼土・粘土ブロック混る
- 3.明赤褐色シルト 燃焼面?

16号



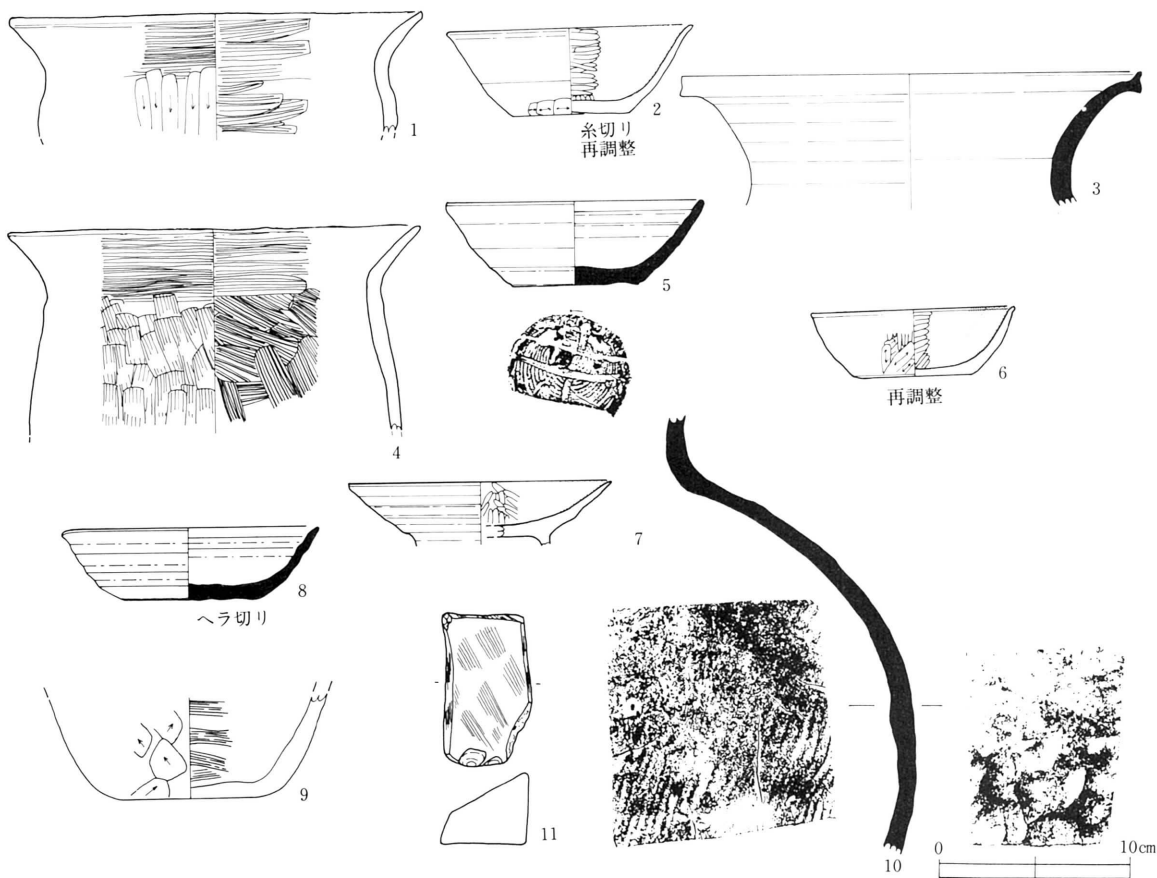
17号



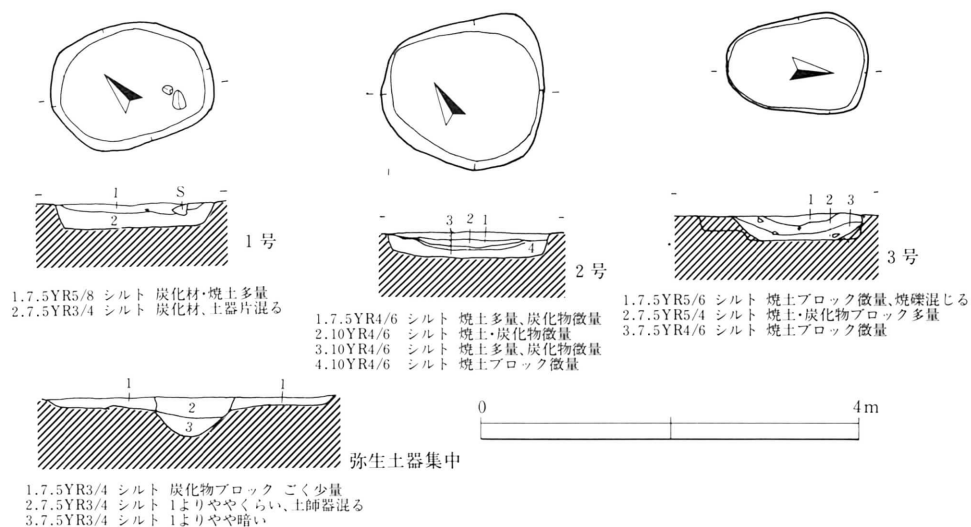
18号



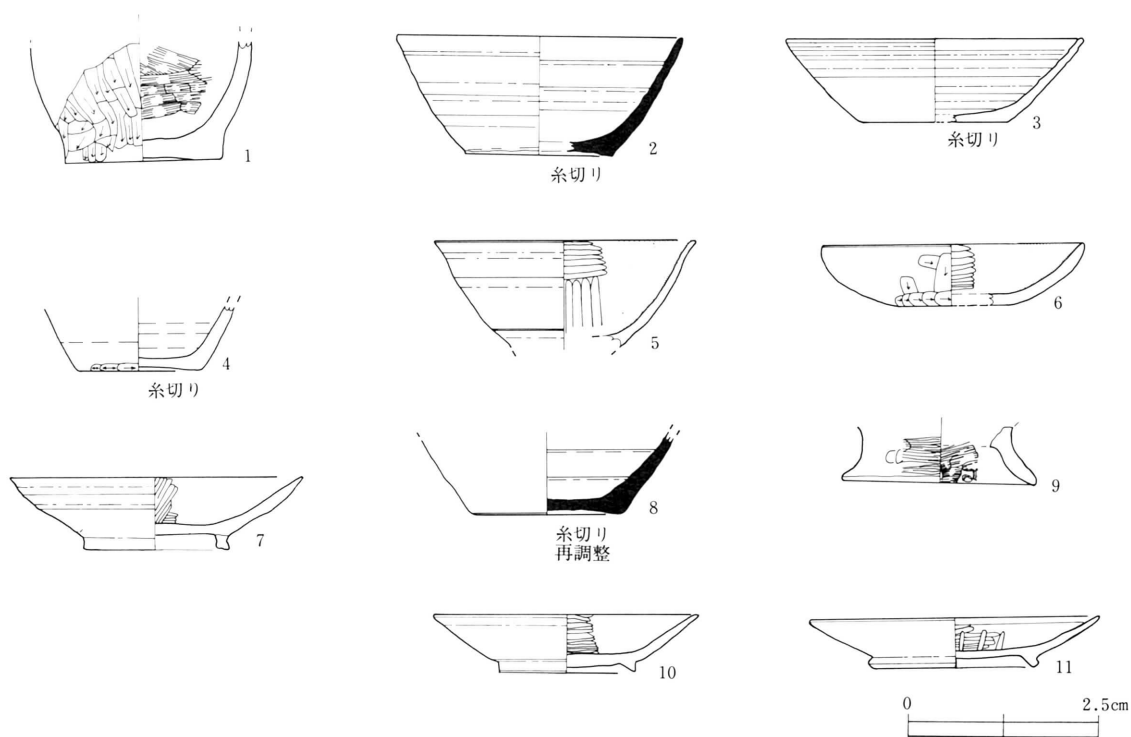
第12図 力石II遺跡竪穴住居跡 (15~18号住居跡)



第13図 力石II遺跡竪穴住居跡出土遺物 (1~6:16号住居跡, 8~11:18号住居跡)



第14図 力石II遺跡土坑，弥生土器集中域



第15図 力石II遺跡土坑出土遺物 (1~11:2号土坑)

土坑その他 (第14、15図)

1号土坑は浅い土坑である。埋土中に鈹滓を含んでいる。2号土坑は浅皿状の土坑である。埋土中より遺物が多量に出土する。高台付土師器環は11のように口縁の大きく開くものが特徴的である。3号土坑も同様に浅い土坑である。

11号住居跡北側では、寺下囲式期の弥生土器が出土した。井戸跡からは中世の石臼が出土した。

2 県営農村活性化住環境整備事業[大桜地区]関連調査

大桜遺跡 (第16図～第20図)

所在地：胆沢郡前沢町字大桜

事業者：胆江土地改良事業所

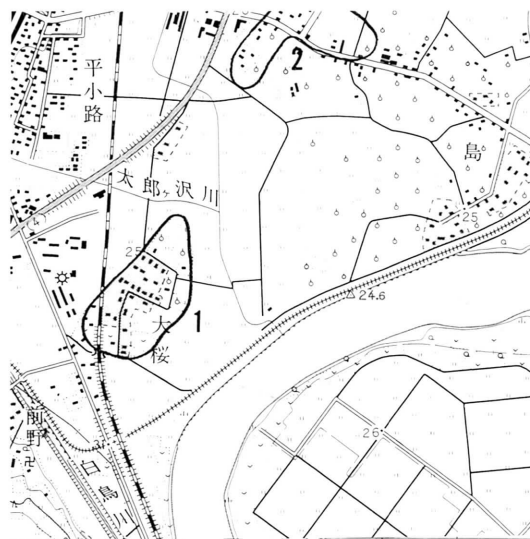
調査期日：平成6年3月1日～23日 (のべ15日間)

本遺跡は、北上川及びその支流である白鳥川によって形成された沖積平野の微高地上に立地し、標高は25m～26mを測る。周囲の水田との比高差は1m内外である。

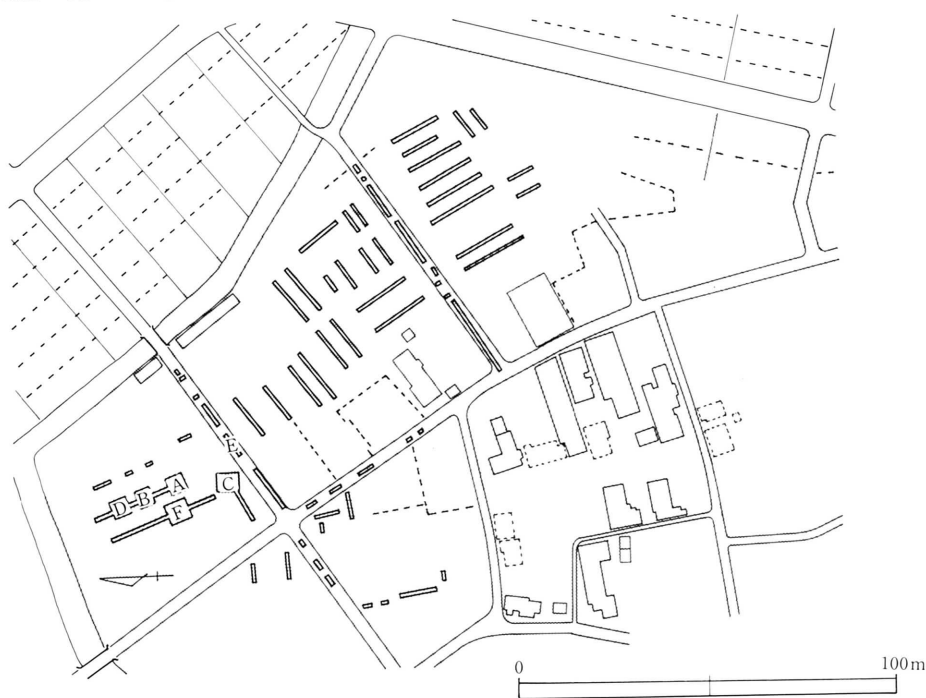
昨年、上記事業に伴い南側約50～100mの地点を調査しているが、10世紀～11世紀と考えられる竪穴住居跡が3棟検出され、かわらけが埋設されている土坑も1基検出された。今回の調査は、事業のために削平を受ける遺跡北端に入れたトレンチに遺構が6ヶ所ほど確認されたため実施したものである。調査の概要を以下に述べる。

1号竪穴住居跡は、東壁中央付近にカマドをもち住居内のほぼ四隅に柱穴と思われるピットが4基、カマド右袖横に貯蔵穴が1基検出されている。2号竪穴住居跡は、東壁中央付近および南壁のやや東寄りの2ヶ所にカマドをもち、南西隅寄りの土坑の埋土に白色粘土が見られたことから、工房跡の可能性が高いと考えられる。3・4号竪穴住居跡は調査区外に延びるため一部しか調査できなかった。4号住居跡は東壁に2本の煙道が確認されたが、形状から住居を重複している可能性が高い。竪穴状遺構は不整形を呈し床面西寄りに土坑をもちものであるが、性格については不明である。焼土遺構は周囲を削平されているため全貌は不明であるが、西側に壁のような掘り込みがまわることから住居跡の一部の可能性が高いと考えられる。

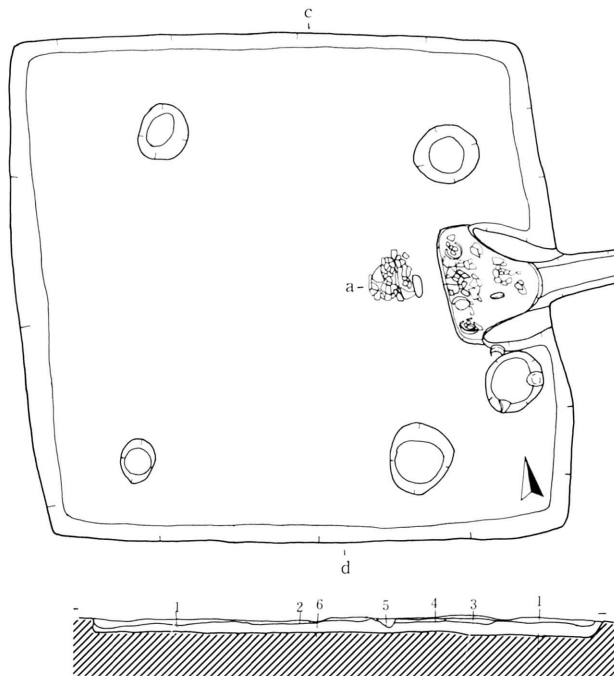
出土遺物について図示できるものを第20図に示したが、9世紀代から10世紀代にかけての遺物が中心で、遺構の存在に時期差が見られる。



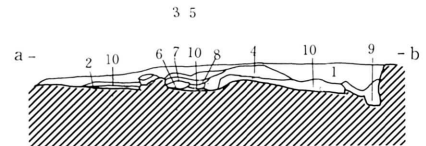
第16図 大桜遺跡の位置



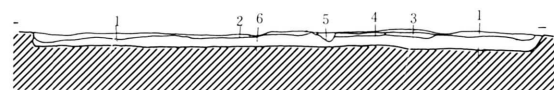
第17図 大桜遺跡調査区位置図



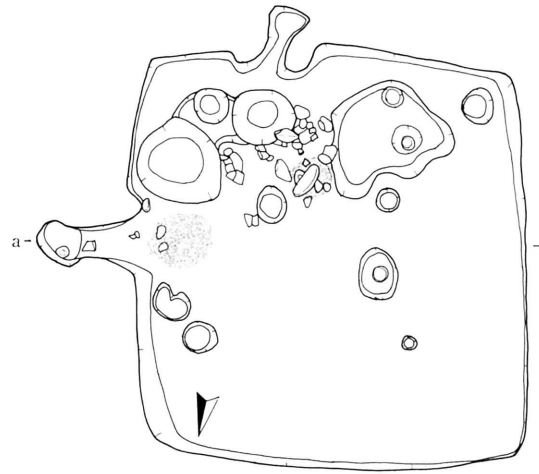
F地点
1号住居跡



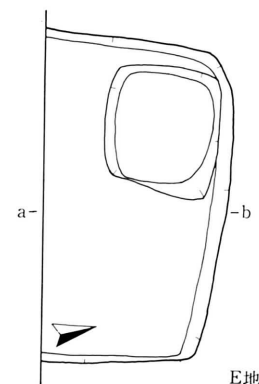
1. にぶい黄褐色 中心部ににぶい黄褐色の焼土ブロック、炭多量、東側に極暗赤褐色の焼土ブロック大量混入、固くしまる
2. 極暗赤褐色 煙道の焼土炭少量混入、固くしまる (焼土層)
3. 暗赤褐色 焼土層、橙色焼土ブロック、土器片少量、炭微量混入、固くしまる
4. にぶい黄褐色土 焼土ブロック比較的多く混入、土器片微量固くしまる
5. 橙 色 焼土層、3層混入、西側に土器群、固くしまる
6. にぶい黄褐色 焼土ブロック大量混入、固くしまる
7. にぶい黄褐色 橙色焼土ブロック(大粒)大量混入、固くしまる
8. 暗赤褐色 焼土層、大きな炭片混入、固くしまる
9. 暗褐色 極暗赤褐色の焼土ブロック、土器片・炭少量混入、南側にカマの口縁部あり、固くしまる
9. 黄褐色土 混入物なし、固くしまる



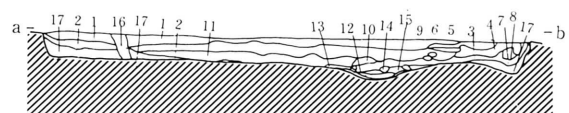
1. にぶい黄褐色 炭少量、土器片微量、固くしまる
2. 暗赤褐色 焼土、表土付近に木炭片、多少やわらかい
3. にぶい黄褐色 炭・焼土少量、固くしまる
4. にぶい黄褐色 木炭片混入、斜線部分は暗赤褐色焼土、固くしまる
5. にぶい黄褐色 全体に木炭片混入、やわらかい
6. 黄褐色 炭少量、焼土微量、固くしまる



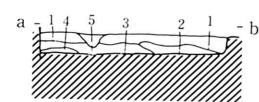
B地点
2号住居跡



E地点
3号住居跡



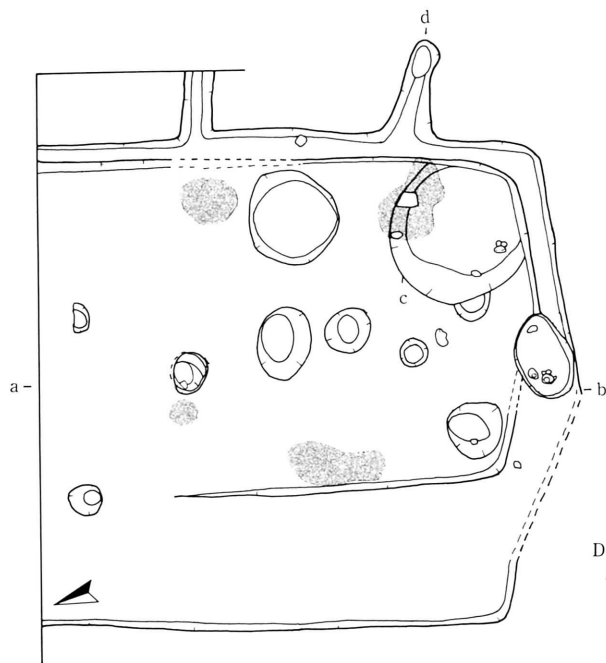
1. にぶい黄褐色 炭・土器片・焼土微量混入、固くしまる
2. にぶい黄褐色 炭・土器片少量、東側土器片付近焼土大量混入、固くしまる
3. にぶい黄褐色 焼土層、土器片微量、固くしまる
4. にぶい黄褐色 炭微量、焼土ブロック(橙色)、赤褐色焼土大量混入、固くしまる
5. 橙 色 土 焼土層、ブロック状、3層混入、固くしまる
6. にぶい黄褐色 土 小粒の焼土ブロック大量混入、固くしまる
7. 極暗赤褐色 焼土層、4層混入、固くしまる
8. にぶい赤褐色 炭微量、橙色焼土ブロック大量混入、固くしまる
9. にぶい赤褐色 炭微量、焼土ブロック少量混入、固くしまる
10. にぶい黄褐色 焼土ブロック少量、固くしまる
11. にぶい黄褐色 土器片・炭少量、固くしまる
12. 暗赤褐色 焼土、炭微量、固くしまる
13. にぶい黄褐色 炭大量、焼土ブロック微量混入、固くしまる
14. 橙 色 焼土、混入物なし、固くしまる
15. 赤褐色 焼土、混入物なし、比較的やわらかい
16. 褐色 土 混入物なし、固くしまる
17. 黄褐色 混入物なし、砂質、比較的やわらかい



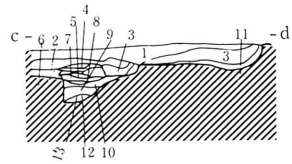
1. 黄褐色 炭・土器片微量混じる
2. にぶい黄褐色 灰色砂質土混じる、固くしまる
3. にぶい黄褐色 炭少量混じる、砂質、しまりなし
4. 黄褐色 土器片微量混じる、固くしまる



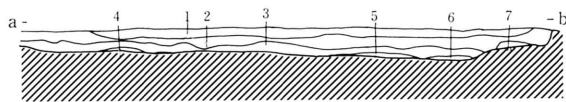
第18図 大塚遺跡竪穴住居跡 I



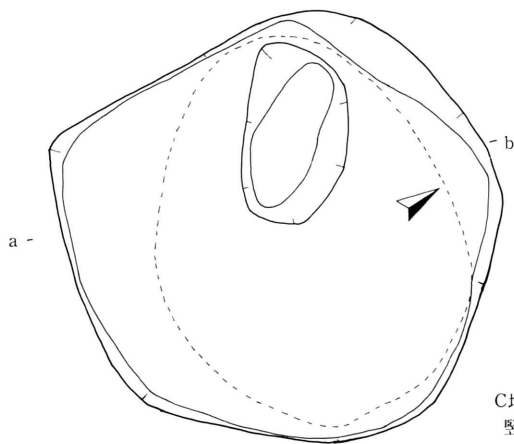
D地点
4号住居跡



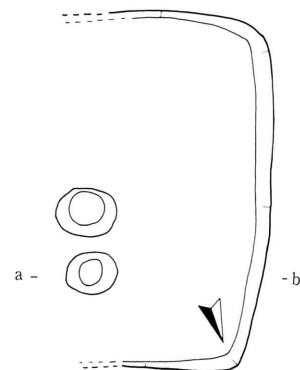
1. におい黄褐色 焼土・炭少量混じる、固くしまる
2. におい黄褐色 炭・土器片・焼土ブロック混じる、固くしまる
3. 黄褐色 焼土大量に混じる、固くしまる
4. 黄褐色 焼土ブロック多く混じる、固くしまる
5. 橙褐色 焼土層、ブロック状で堆積、固い
6. におい黄褐色 炭・焼土多く混じる、やわらかい
7. におい黄褐色 6層より明るい、焼土多く、炭微量混じる、やわらかい
8. 橙褐色 焼土層、混入物なし、石のように固い
9. 赤褐色 焼土層、混入物なし、やわらかい
10. 暗赤褐色 焼土層、炭微量混じる、やわらかい



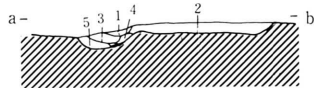
1. におい黄褐色 焼土・土器片・炭少量混じる、固くしまる
2. におい黄褐色 1層より明るい色、土器片・木炭片・焼土少量混じる、固くしまる
3. 黄褐色 土器片・炭・南側に多く混じる、固くしまる
4. におい黄褐色 炭多く混じる、土器少量、砂質、やわらかい
5. におい黄褐色 焼土少量、炭多量混じる、やわらかい
6. 明黄褐色 砂質、火山灰？混入物なし
7. 黄褐色 混入物なし、砂質



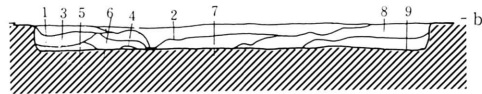
C地点
竪穴状遺構



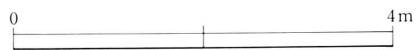
A地点
焼土遺構



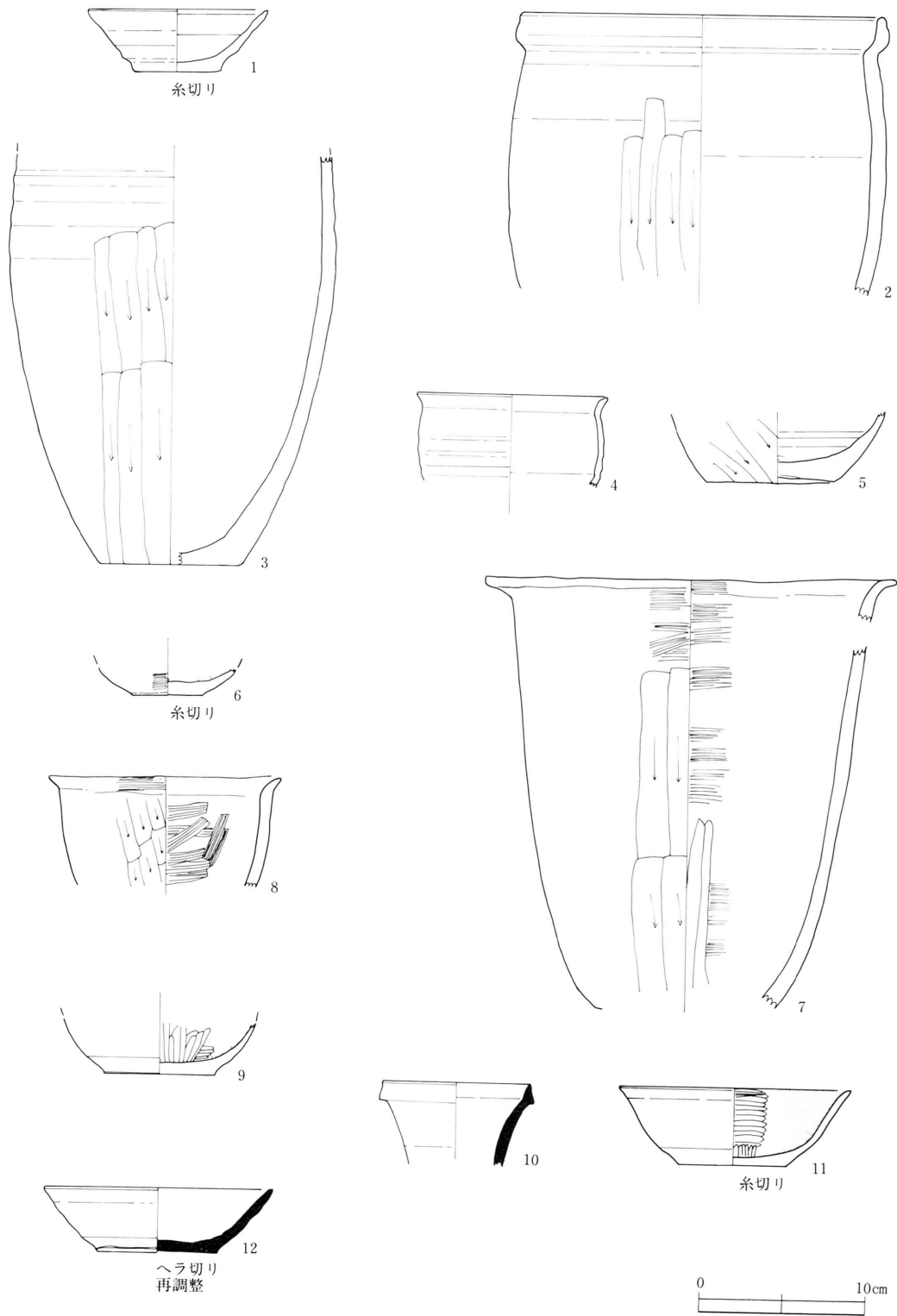
1. 赤褐色 焼土・炭・橙褐色焼土ブロック混じる、固くしまる
2. 黄褐色 炭・土器片・焼土微量、固くしまる
3. 黄褐色 木炭片・焼土少量、固くしまる
4. におい黄褐色 炭・土器片・焼土多く混じる、固くしまる
5. 黄褐色 灰色の砂質土多く混じる、固くしまる



1. におい黄褐色 混入物なし、固くしまる
2. におい黄褐色 土器片・炭比較的多く混入、固くしまる
3. 黄褐色 炭・土器片微量混入、固くしまる
4. におい黄褐色 炭微量、中央より北側に灰色土混入、固くしまる
5. 黄褐色 炭微量混入、固くしまる
6. におい黄褐色 炭大量混入、固くしまる
7. におい黄褐色 炭・土器片大量混入、固くしまる
8. 黄褐色 炭・土器片微量、固くしまる
9. 黄褐色 炭微量、固くしまる
10. 黄褐色 炭比較的多く混入、固くしまる



第19図 大塚遺跡竪穴住居跡2



第20図 大桜遺跡竪穴住居跡出土遺物
 (1~3: 焼土遺構, 4~7: 2号住居跡, 8~11: 1号住居跡, 12: 竪穴状遺構)

3 広域農道整備事業〔盛岡西部〕関連調査

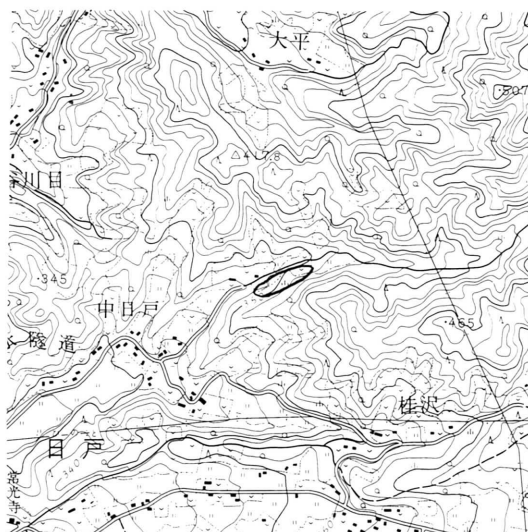
弓打沢遺跡（第21～24図）

所在地：岩手郡玉山村弓打沢

事業者：岩手北部土地改良事業所

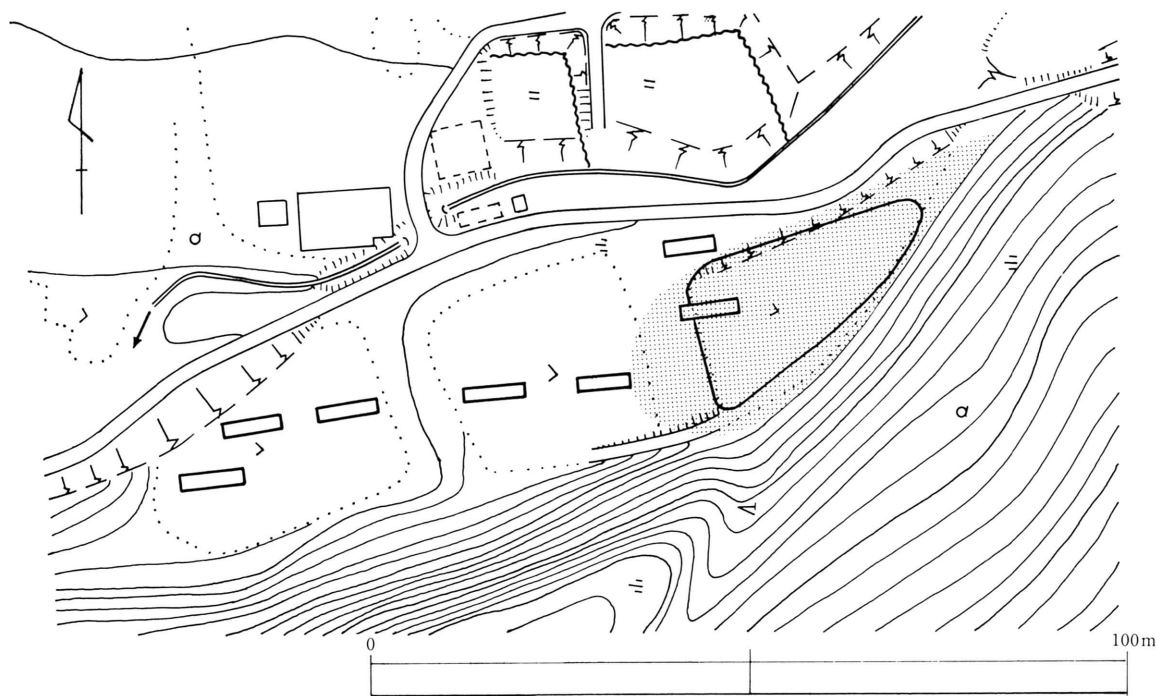
調査期日：平成6年7月18日～22日（のべ5日間）

本遺跡は、北部北上山地に所在する物見山より西に流れ出る小さな沢沿いに立地する。この沢は玉山の集落から洪民方面へ北流し、北上川に合流する。遺跡付近の標高約340m。調査区は、過去に行われた農地造成によって旧地形を止めていないが、南側がまもなく急勾配の山地となることから、極狭い範囲で東西に細長く営まれた遺跡の一部であると考えられる。沢を挟んだ北側には、縄文後期の間洞II遺跡が所在する。



第21図 弓打沢遺跡の位置

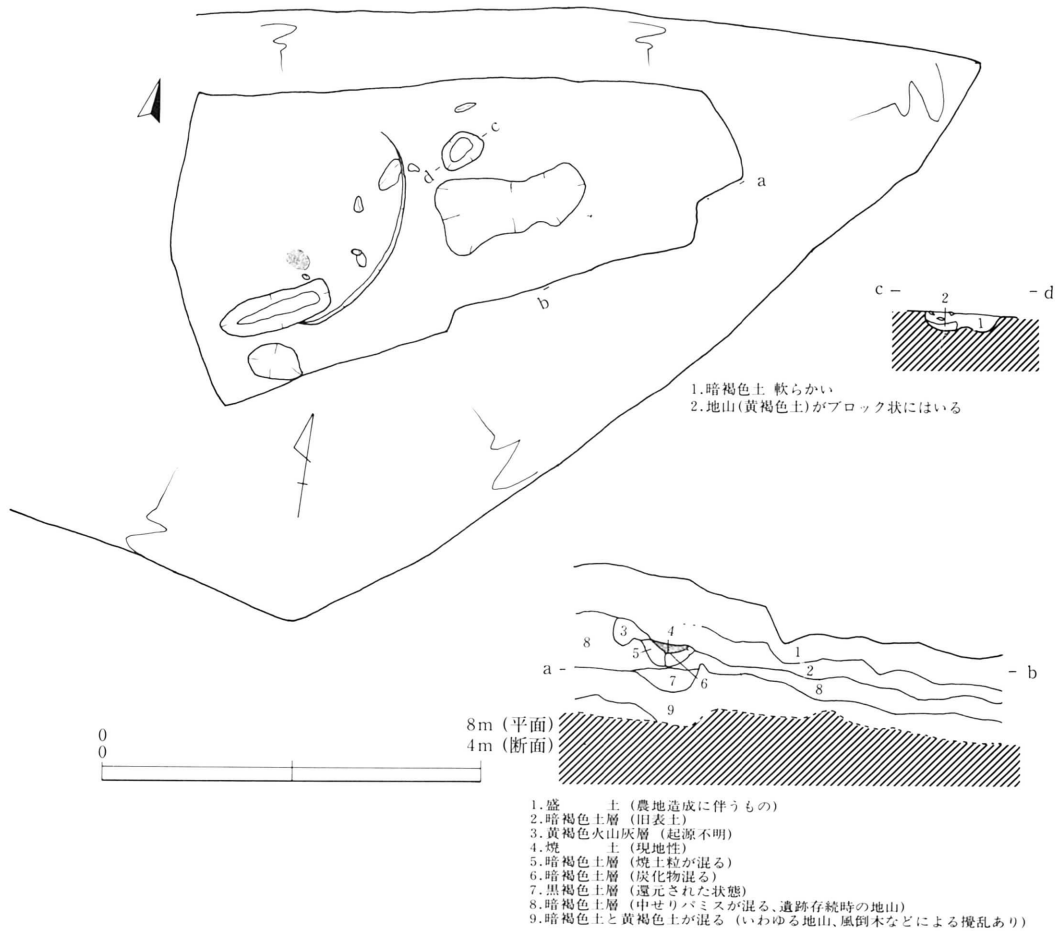
試掘調査を実施した結果、現地表下2mより焼土跡や



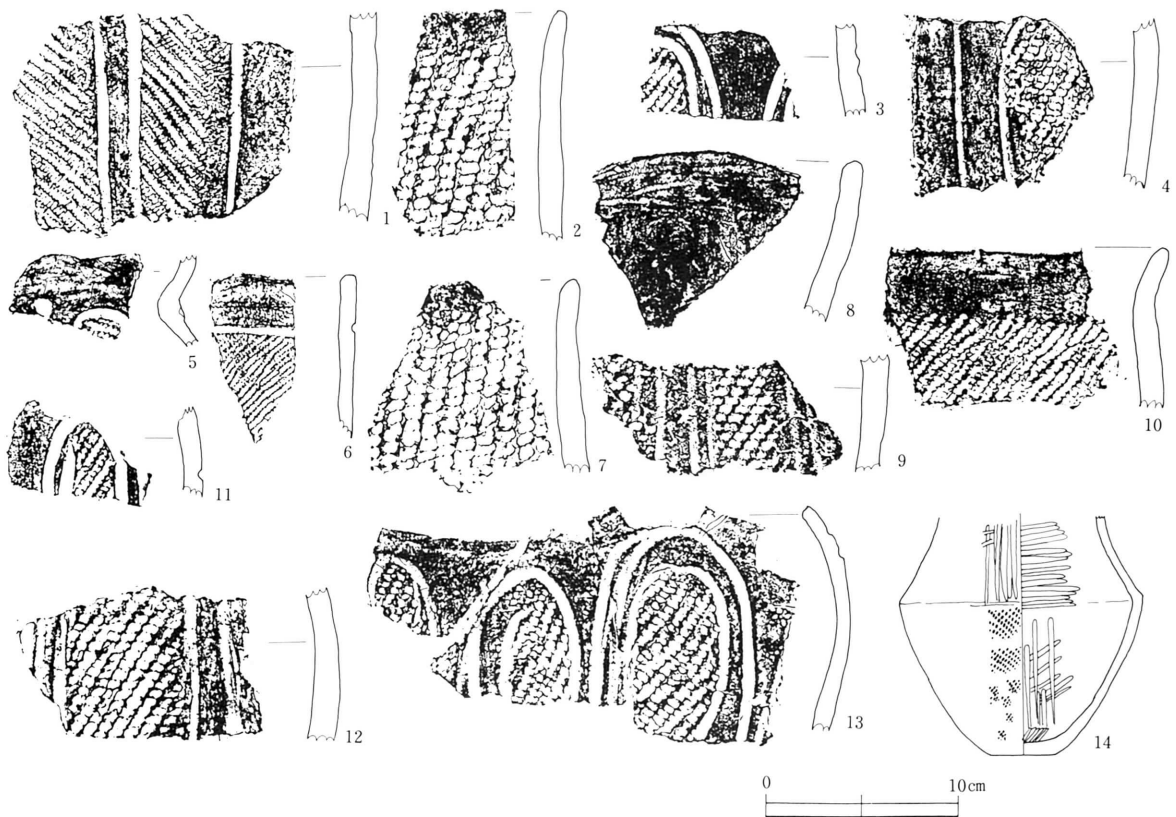
第22図 弓打沢遺跡調査区位置図

縄文土器などが検出された。しかし、地形的な制約からこの部分の路線の変更が困難であることから、事業者と協議の上緊急発掘調査を実施し記録保存を行うこととした。

調査面積は約60m²。検出された遺構は落し穴状土坑1基、土坑1基、焼土2基ほか遺物包含層である。いずれも縄文時代中期後半のものである。遺物包含層や焼土については、遺物の出土状態から竪穴住居跡の可能性を考慮して精査を進めたが、明瞭な掘り込みなどは認められなかった。縄文土器は大木9式期を中心とするものである。14は土坑中から出土している。石器類は不定形なものか剥片で、定形的な石器はない。



第23図 弓打沢遺跡遺構配置図



第24図 弓打沢遺跡出土遺物

4 北上川中流築堤事業関連調査

中神四日市遺跡 (第25～28図)

所在地：西磐井郡花泉町日形字中神四日市

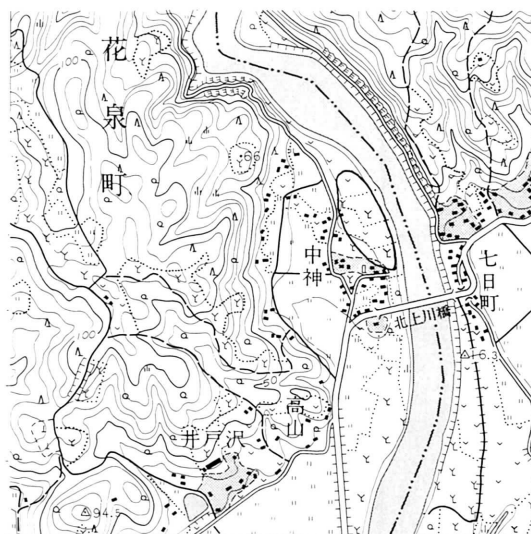
事業者：建設省岩手工事事務所

調査期日：平成6年4月14日～5月18日(のべ5日間)

本遺跡は、北上川中流右岸に形成された自然堤防上に立地している。標高15m。北上川は狐禅寺峡谷以南所々川幅を狭めていて、この付近もやや狭くなっている。宮城県境まで約7kmの地点である。遺跡の北西約1kmには、縄文時代晩期末から弥生時代に掛けて形成された集落跡・遺物包含層中神ドウジャ森遺跡が位置している。

県教育委員会文化課では、建設省岩手工事事務所によってこの地域に堤防工事が実施されることから、事前に試掘調査を行った結果、現地表下150cmで焼土及び須恵器を部分的に検出した。堤防という性格上、事業計画の変更が困難であることから、工事に先立ち記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施した。

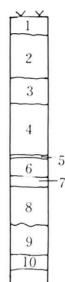
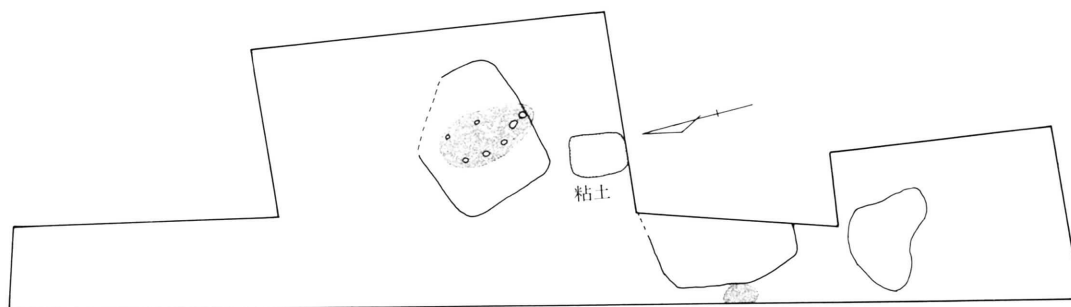
精査面積は約140㎡。古代の生活面は5層上面と7層上面の2面であるが、遺構が検出されたのは7層上面である。検出された遺構は、竪穴住居跡状遺構1基、焼土1基、貼り床状遺構1基である。出土遺物は須恵器坏、土師器、砥石、刀子、凝灰岩製紡錘車などで、9世紀初頭に属すると考えられる。



第25図 中神四日市遺跡の位置



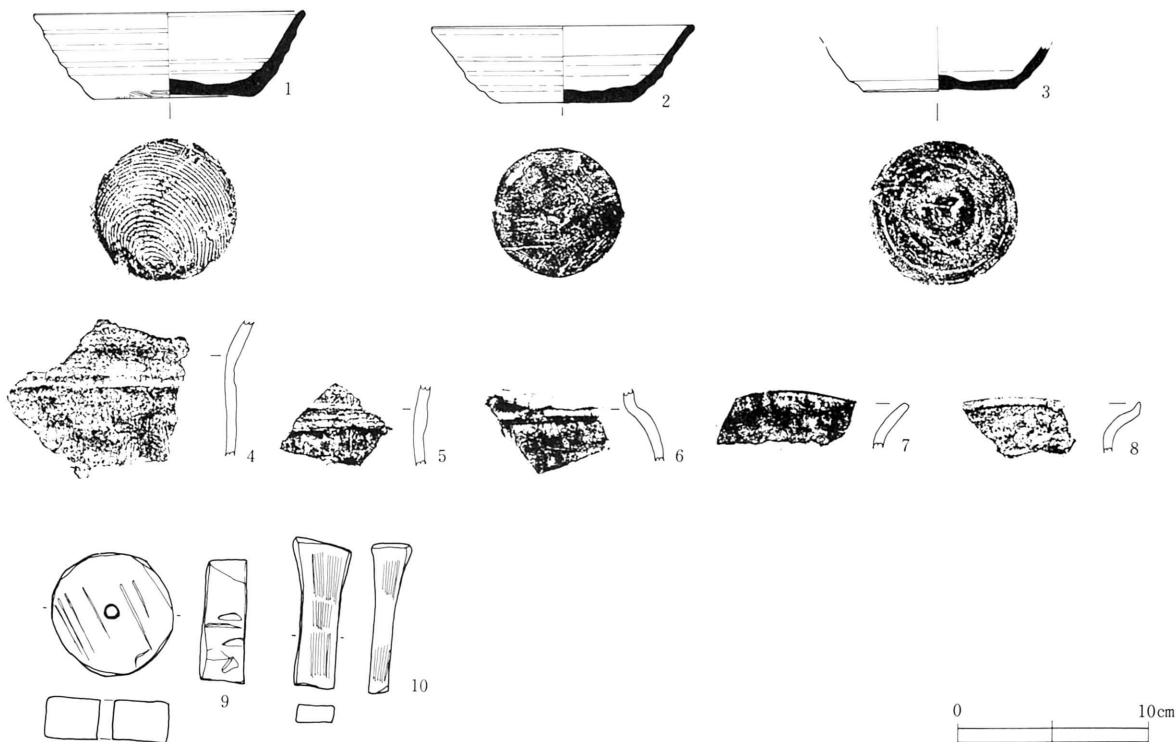
第26図 中神四日市遺跡調査区位置図



- 1. 表 土 (黒褐色砂質土)
- 2. 暗 褐色 砂 (上部はやや汚れる)
- 3. 明 暗 褐色 砂 (やや粗い砂層)
- 4. 暗 褐色 砂 層 (やや粒子が細かい)
- 5. 灰褐色シルト層 (上部は酸化し赤色化する、第I文化層)
- 6. 暗 褐色 砂 層 (くすんでいる)
- 7. 褐色シルト質砂層 (炭化物含む、第II文化層)
- 8. 暗 褐色 砂 層 (ウンモ粒子を多く含む、やや白っぽい)
- 9. 黒褐色シルト層 (上下は砂ブロックが混る、ややグライ化した泥炭層)
- 10. 暗 褐色 砂 層
- 11. 黒褐色シルト層 (泥炭層、上位の砂層と不整合)



第27図 中神四日市遺跡遺構配置図



第28図 中神四日市遺跡出土遺物

5 一般県道相去飯豊線道路改良事業関連調査

前稗沢遺跡 (第29図～32図)

所在地：北上市相去字前稗沢

事業者：北上土木事務所

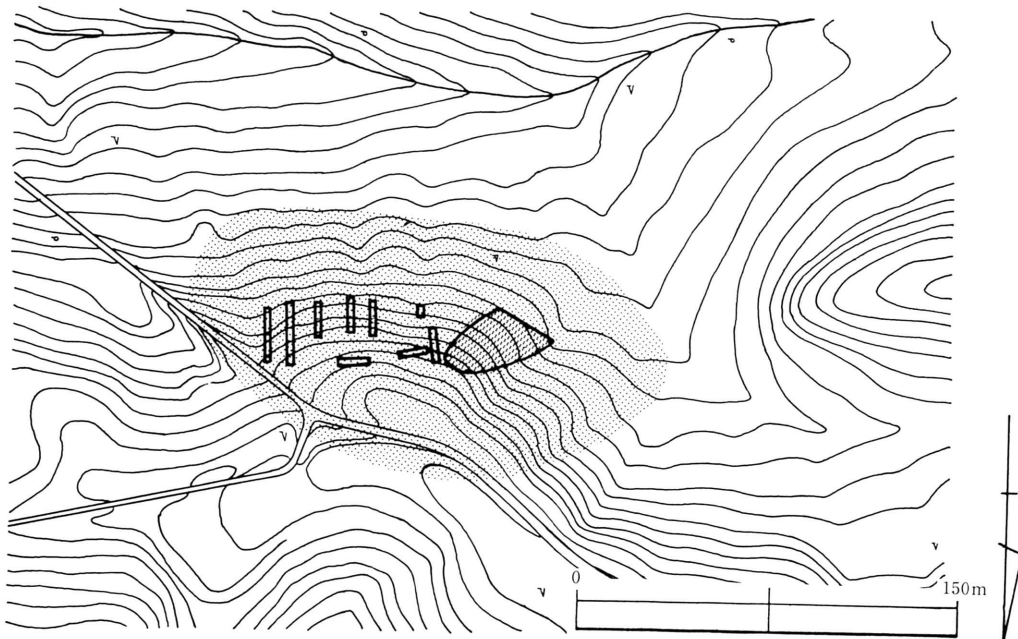
調査期日：平成6年3月24日～4月21日(のべ4日間)

本遺跡は北上川によって形成された河岸段丘の高位面に立地している。この高位段丘面は開析が進み、かなりの起伏を有している。この起伏の南向き緩斜面に遺跡が所在している。遺跡付近は調査以前は山林であり、後世の地形改変は最小限に止まっていたと考えられる。標高110m。東北自動車道相去パーキングは西約1kmである。

この相去パーキングに北上南インターチェンジ(仮称)が建設されることから、そのアクセス道路の路線上に本遺跡が所在した。事業の性格上路線変更が困難であることから、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施した。



第29図 前稗沢遺跡の位置



第30図 前稗沢遺跡調査区位置図

精査面積は約200㎡。検出した遺構は竪穴住居跡2基である。

1号住居跡は、調査区東端で検出されている。3m×3.2mほどの隅丸で、東壁中央にカマドが作られている。住居の掘り込みは30cm内外で、壁は部分的に緩やかな傾斜をとっている。カマド燃焼部での焼土の形成は弱く、厚さ広がりとも小規模である。袖は河原石を芯としてシルトを固めて作られていた。煙道は東に向かって伸び、煙出し部に向かって浅くなっている。なお、この住居跡のカマドは当初南壁に作られていたと考えられ、その部分は貼り床がなされ、下部では土坑状の掘り込みとなっていた。床面は全体に柔らかく、しかも壁際に沿ってやや高くなっている。柱穴は認められなかった。住居跡埋土ほぼ中央には十和田a灰白

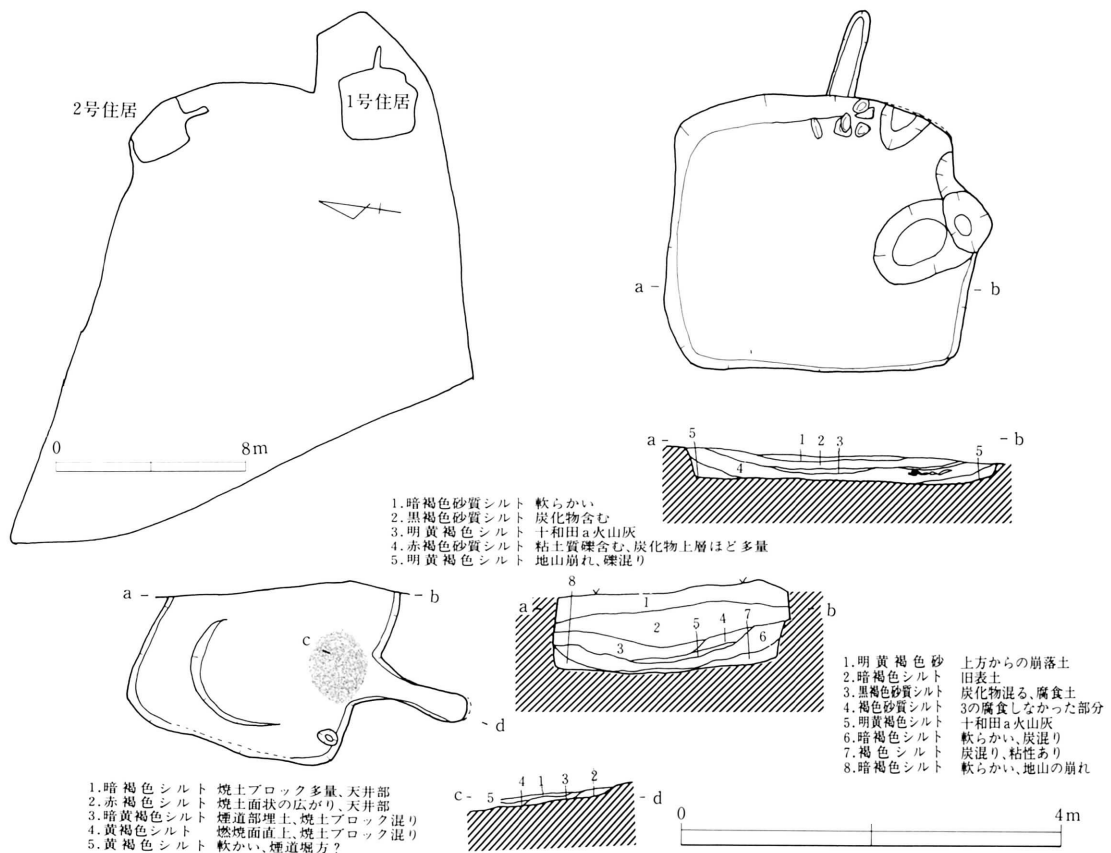
色火山灰を含む。火山灰層を挟み、多量の炭化物が含まれていた。この炭化物は、床面近くでは顕著でなく、焼失住居などとは異なるものと考えられた。

出土遺物は土師器甕、坏、須恵器壺、坏などである。甕はロクロ成形のものが多く、小型のものは底部に糸切り痕を残している。坏はロクロ成形で、内面黒色処理されている。立上がりやや内湾している。ケズリやナデ調整が行われる。須恵器には底径が大きく深いもの、底径が大きく浅いもの、底径の小さいものなどがあり、変異に富む。ヘラ切りと糸切りがある。

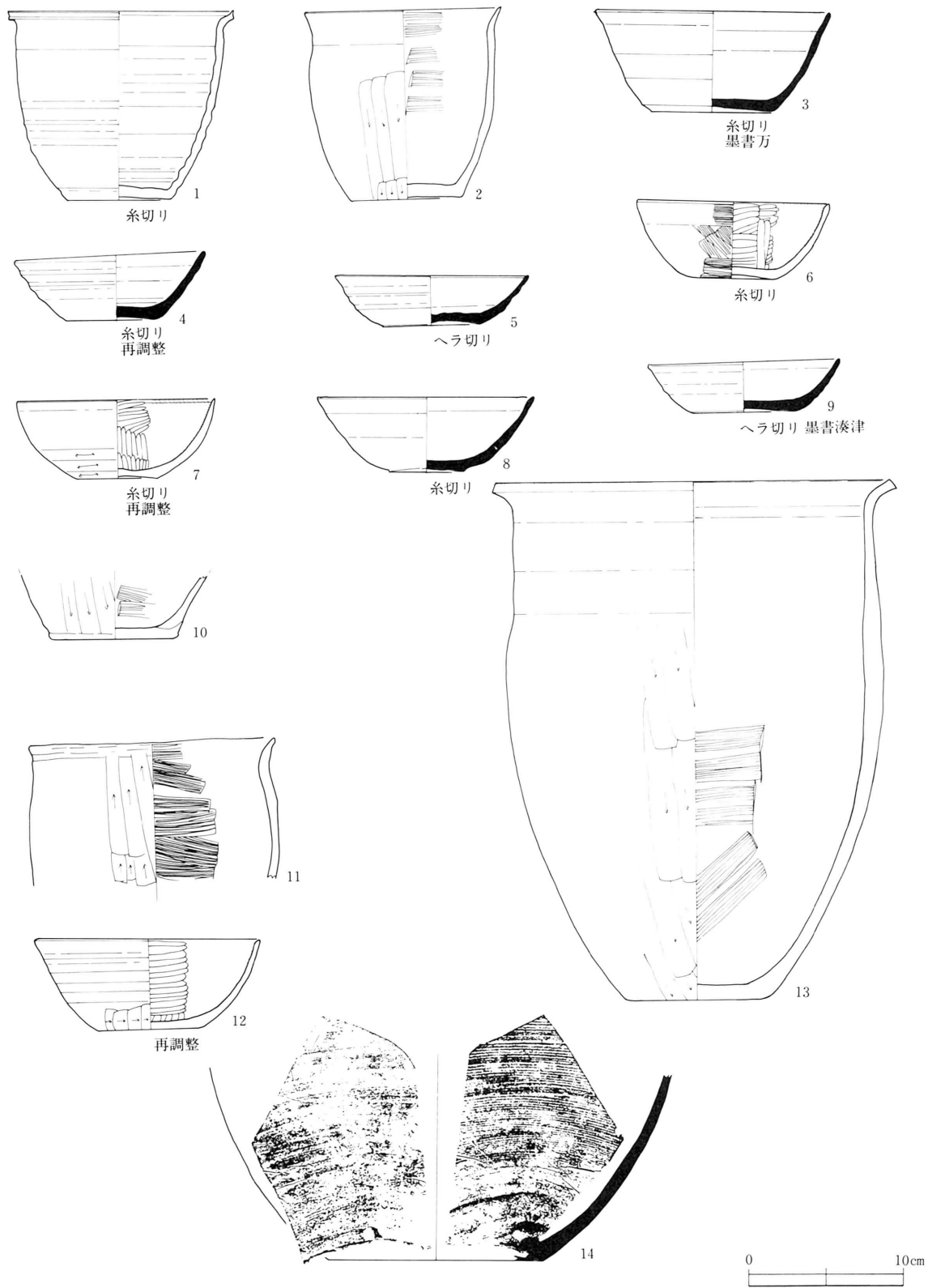
2号住居跡は、調査区北側隅で検出されている。2/3ほどは調査区から外れている。一辺が2.4mの方形を呈すると考えられる。掘り込みは35cm前後である。カマドは南東壁に作られているが、この部分は上部が削平されており、残存状況は良くない。しかし燃烧部の焼土は良く形成され、硬くしまっている。煙道は煙出し部に向かってやや掘り込みが浅くなる。床面は中央部に貼り床が認められ、この部分はやはり周囲に比して硬い。南隅に、柱穴跡と考えられる小さな掘り込みを検出した。1号同様埋土中央には十和田a火山灰が含まれている。火山灰層の上下で、炭化物が多量に出土した。

出土遺物は土師器甕と内黒の坏である。

この遺跡では遺構外の西側斜面でも炭化物が多量に出土している。また、住居跡の規模も通常よりやや小さいこと、須恵器の割合が極めて高いことなど、通常の集落跡とは異なっている。付近の南部工業団地内では古代の炭窯が検出されていることなどから、本遺跡も生産に関わる性格を有した可能性が高いだろう。遺跡の年代は9世紀後半～末と考えられる。



第31図 前稗沢遺跡竪穴住居跡



第32図 前稗沢遺跡竪穴住居跡出土遺物 (1~10, 13, 14: 1号住居跡, 11, 12: 2号住居跡)

6 県立大学整備事業関連調査

菓子Ⅲ・Ⅳ遺跡（第32図～34図）

所在地：岩手郡滝沢村菓子

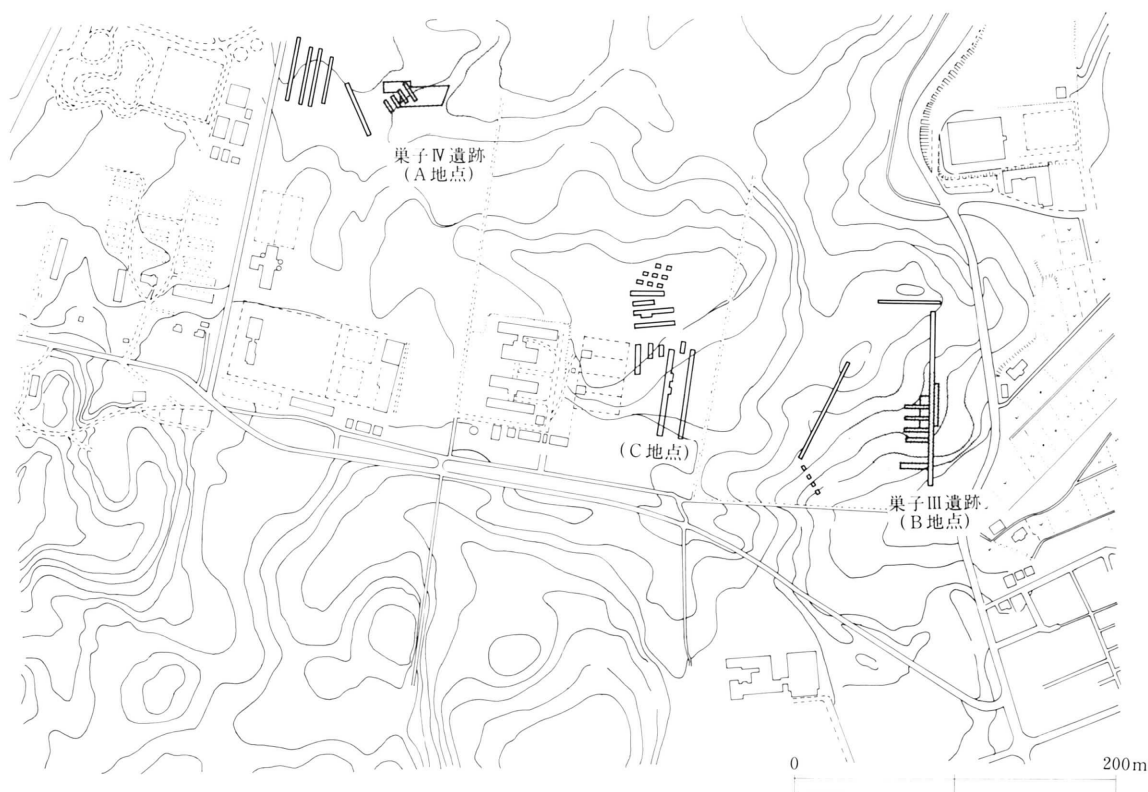
事業者：総務部県立大学整備室

調査期日：平成6年7月25日～11月2日（のべ10日間）

本遺跡は、北上川上流右岸の丘陵上に立地している。標高255m。県立大学敷地予定地内は、岩手県畜産試験場用地として利用されている。調査開始時点で、敷地内は周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されていなかったものの、周辺地域の遺跡立地状況から遺跡の可能性が高いと考えられたところから、まず遺跡の有無確認調査を実施した。その結果、予定地西北部及び東端部で落し穴遺構が検出されたことから、これらの地域を埋蔵文化財包蔵地として登録した。さらに、この箇所については開発行為が避けられなかったことから、事業の実施に先立ち記録保存を目的とする緊急発掘調査を実施した。その結果、A地点とした菓子Ⅳ遺跡及びB地点とした菓子Ⅲ遺跡でそれぞれ落し穴遺跡が2基ずつ検出され、精査を行った。これらはすべて縄文時代後期中頃に降下したとされる生出土スコリアの上部から掘り込んでいることから、それ以降のものと判断した。遺物は出土していない。なお、C地点では遺構・遺物とも発見されなかった。

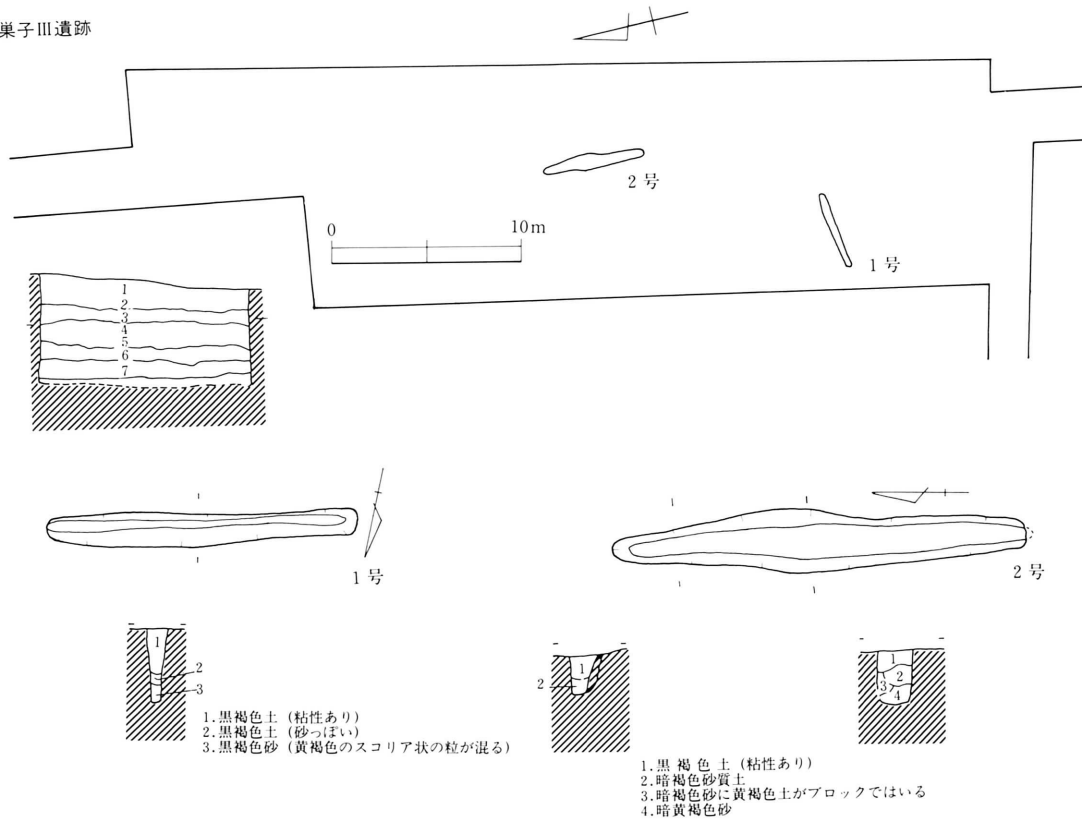


第32図 県立大学予定地内の位置

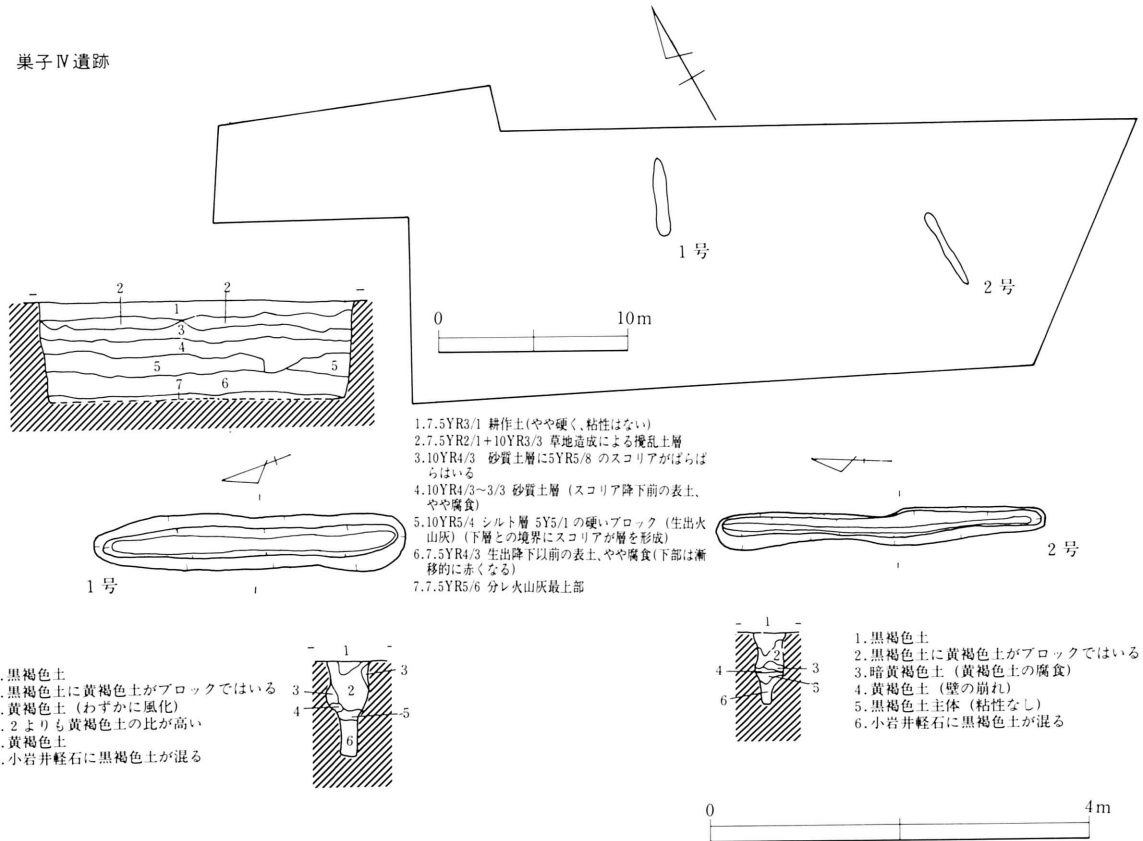


第33図 県立大学予定地内調査区位置図

菓子III遺跡



菓子IV遺跡



第34図 県立大学予定地内遺構配置図



II 試掘調査



1 県営ほ場整備事業 [小友地区] 関連調査

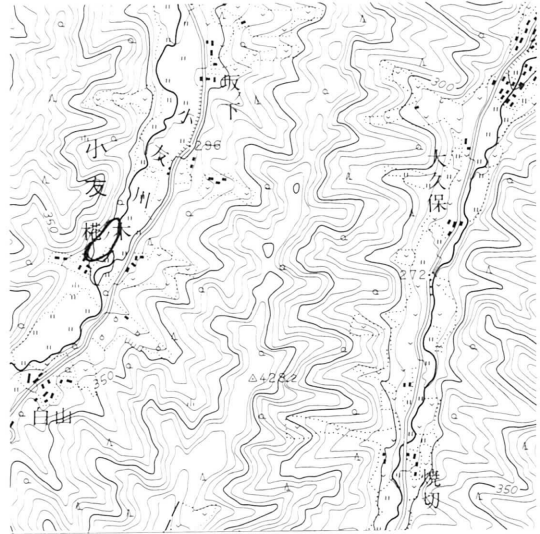
椈ノ木II遺跡 (J E 48-0306)

所在地：二戸郡一戸町小友椈ノ木

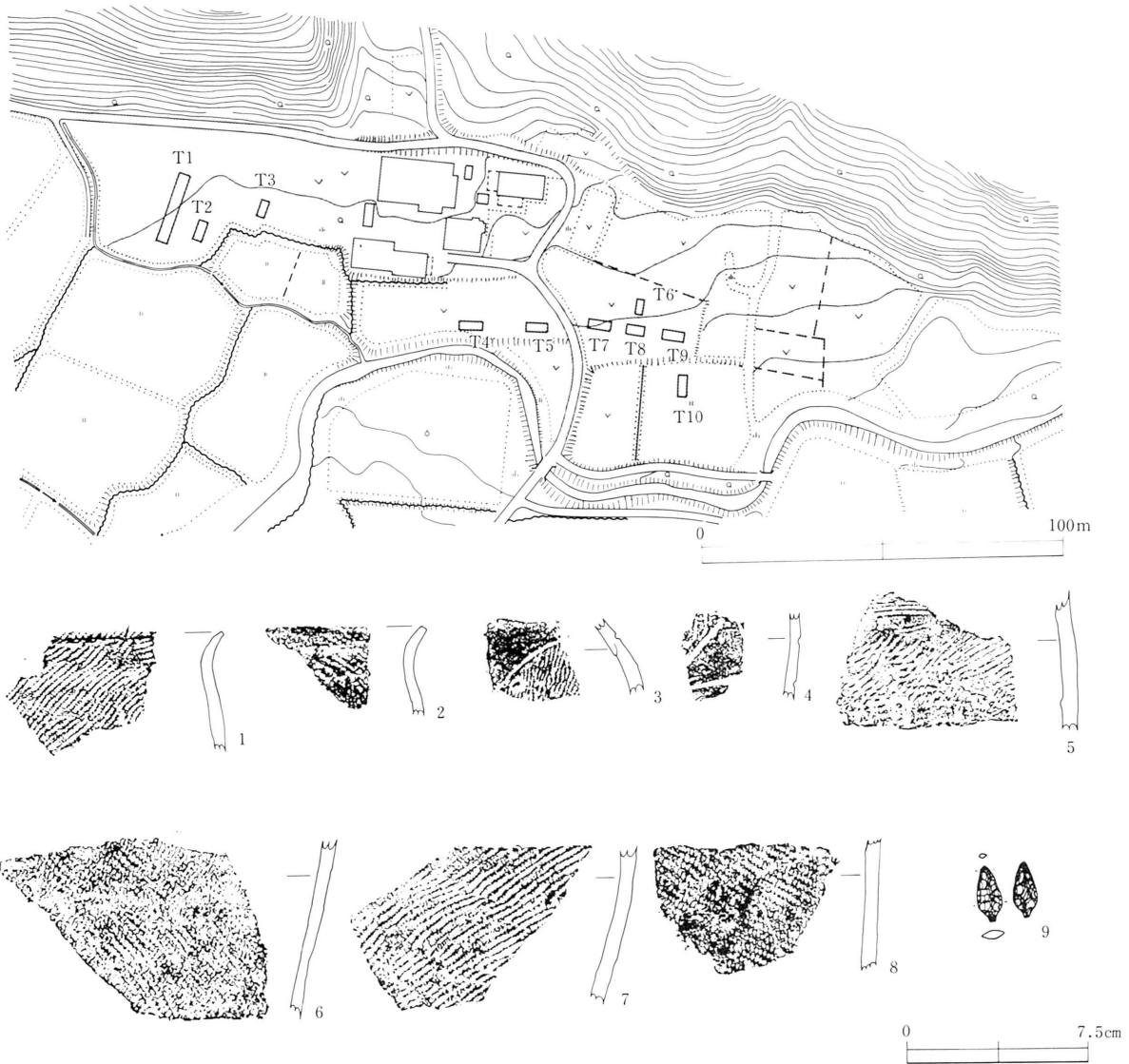
事業者：二戸土地改良事業所

調査期日：平成6年9月29日

遺跡は馬淵川に注ぐ小友川右岸の低位段丘に立地している。標高300m。調査の結果、T1～3、T6～9で縄文時代後期の遺物が出土している。T1では焼土が見られることから、竪穴住居跡である可能性が高い。T6～9では土器が多量に出土し、遺物包含層であると考えられ。その他のトレンチでは、遺構・遺物とも確認できなかった。(平成7年度本調査予定)



第35図 椈ノ木II遺跡の位置



第36図 椈ノ木II遺跡調査区位置図及び出土遺物

2 かんがい排水事業〔一方井地区〕関連調査

倍田遺跡（J E96-2138）

所在地：岩手郡岩手町大字黒内地内

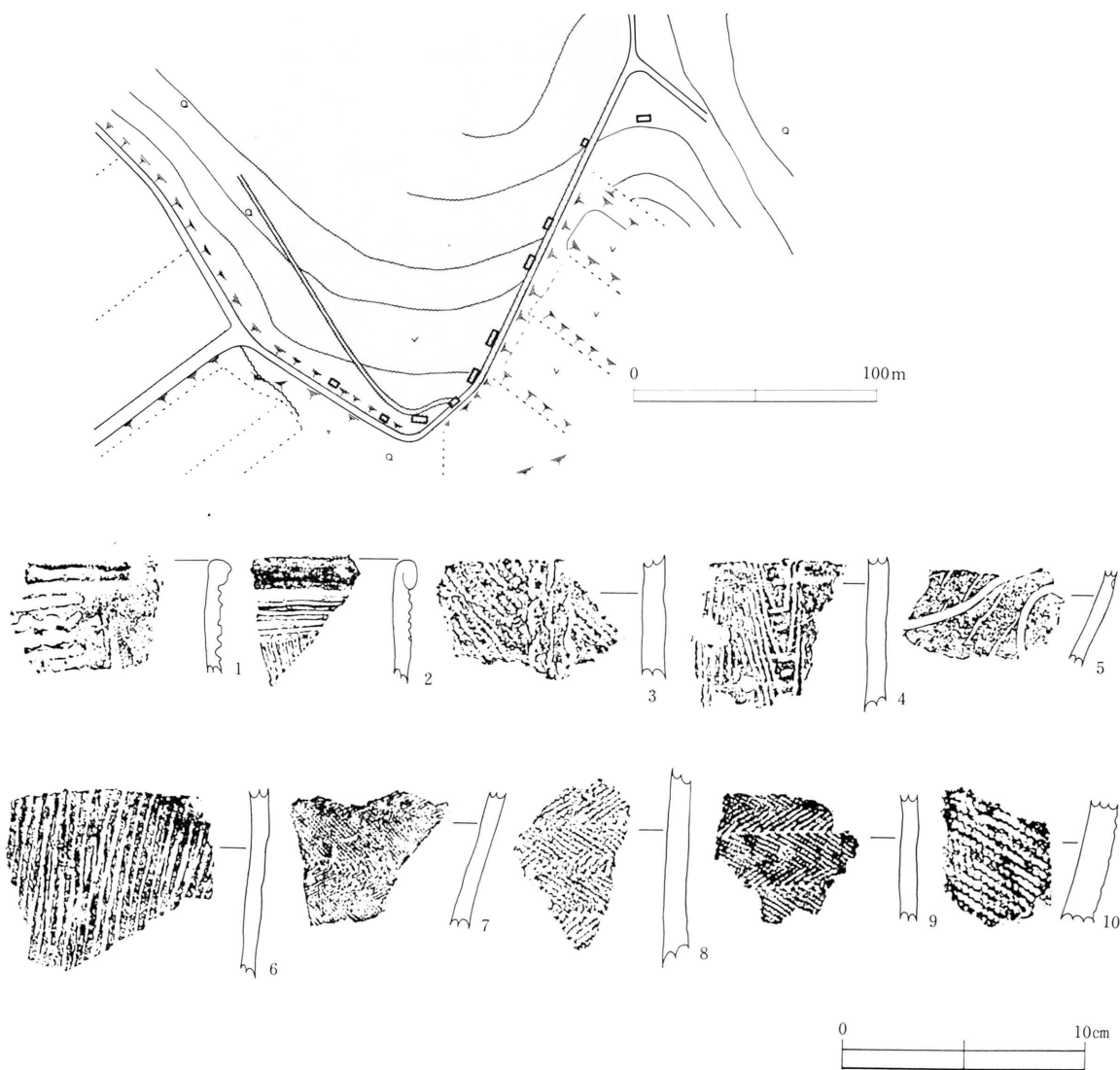
始業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成6年6月7日

遺跡は一方井川に合流する木谷内沢と倍田ノ沢によって挟まれた段丘上に立地する。標高355m。調査地点は遺跡の南縁部を中心とするが、西端部はすでに以前に破壊されている。現在の畑地及び山林と道路の間の斜面では、住居跡に伴うと考えられる焼土が複数確認された。事業者と協議した結果、予定施設の埋設位置を変えることで、遺跡の保存を図ることとした。



第37図 倍田遺跡の位置



第38図 倍田遺跡調査区位置図及び出土遺物

3 広域農道整備事業〔盛岡西部地区〕関連調査

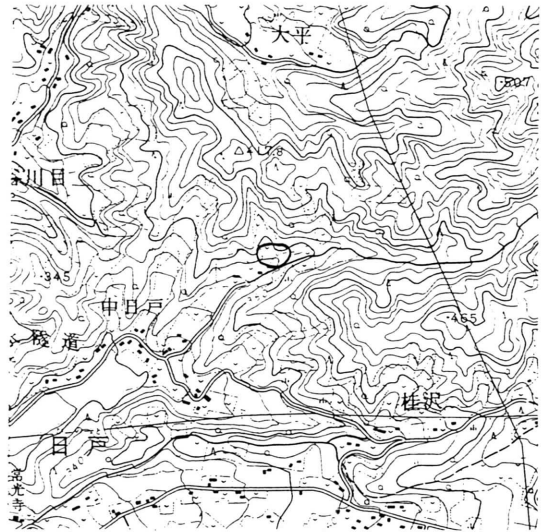
間洞II遺跡 (KE78-0240)

所在地：岩手郡玉山村日戸字間洞地内

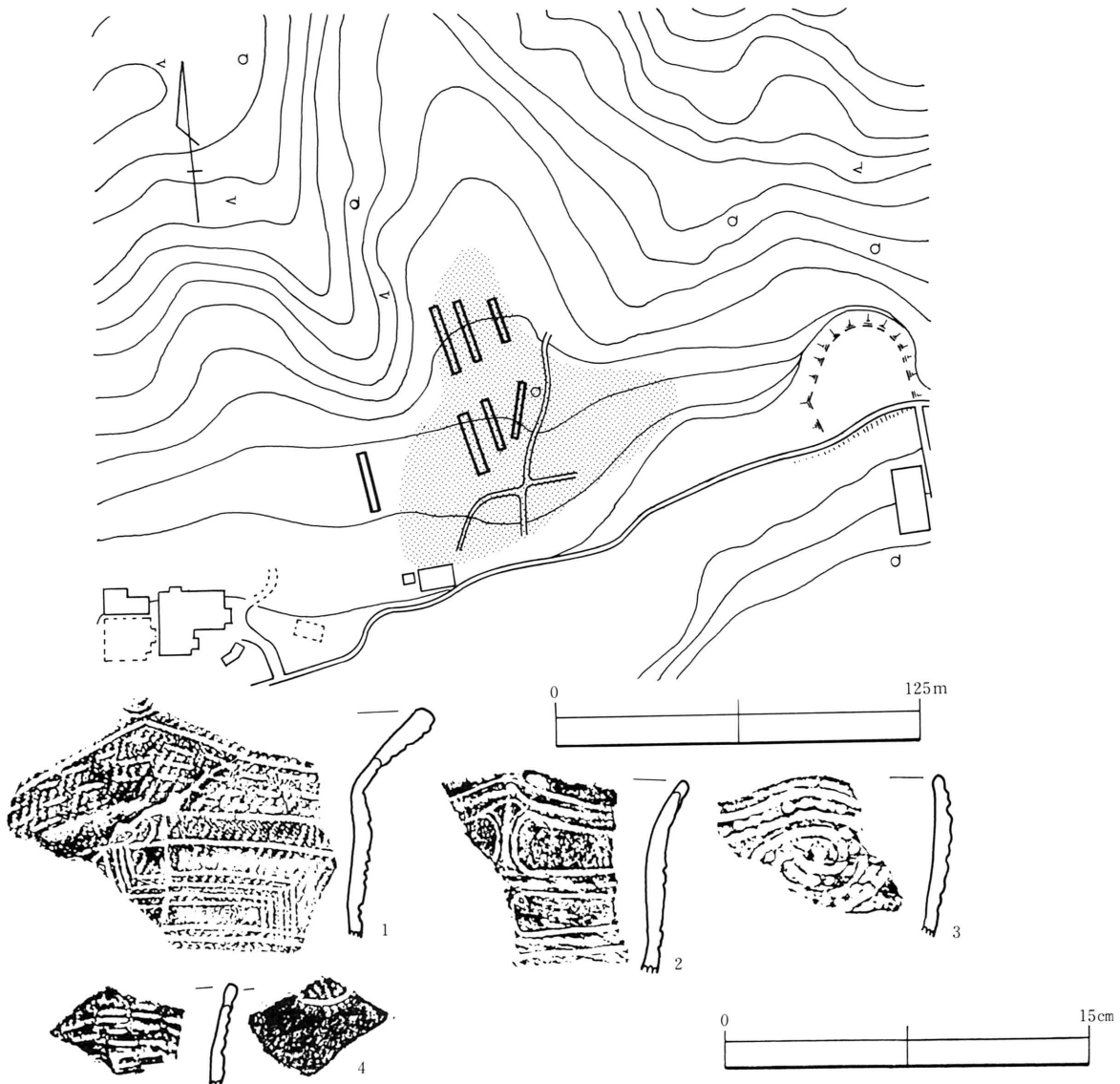
事業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成6年7月22日

遺跡は物見山に端を発する小さな沢に面して立地する。標高340m。さらに遺跡の北側に向かって沢地形を呈していて、調査の結果西側尾根筋に沿って埋没した旧河道が確認された。北側の狭い平坦地部分では縄文時代後期の遺物包含層が厚さ20cm以上形成されていた。南向き緩斜面部分では地山に焼土が形成されていた。協議の結果、工事関係施設部分について平成7年度発掘調査を実施することとした。



第39図 間洞II遺跡の位置



第40図 間洞II遺跡調査区位置図及び出土遺物

4 ふるさと農道整備事業〔目名市地区〕関連調査

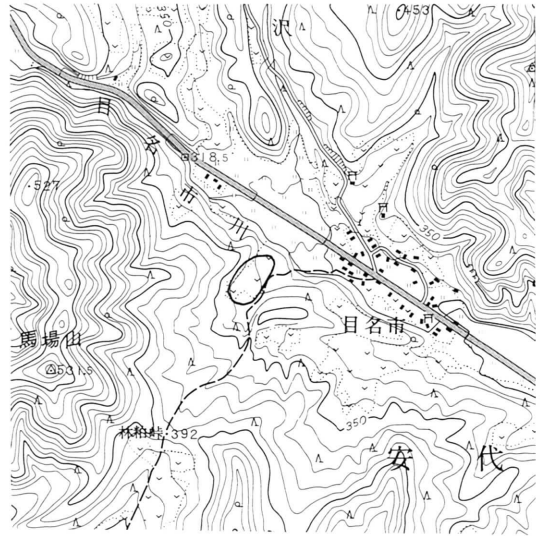
目名市遺跡（J E 54-1137）

所在地：二戸郡安代町目名市地内

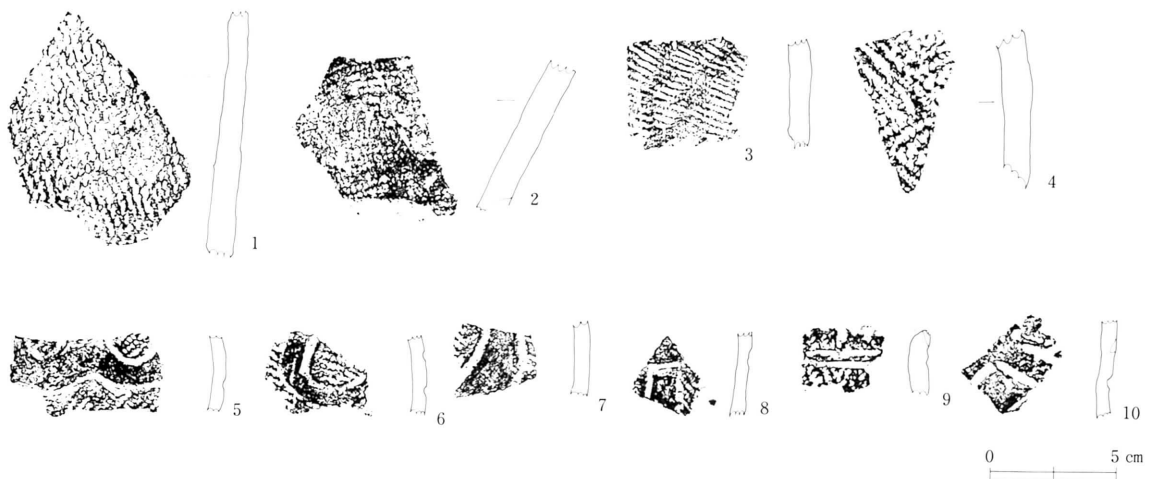
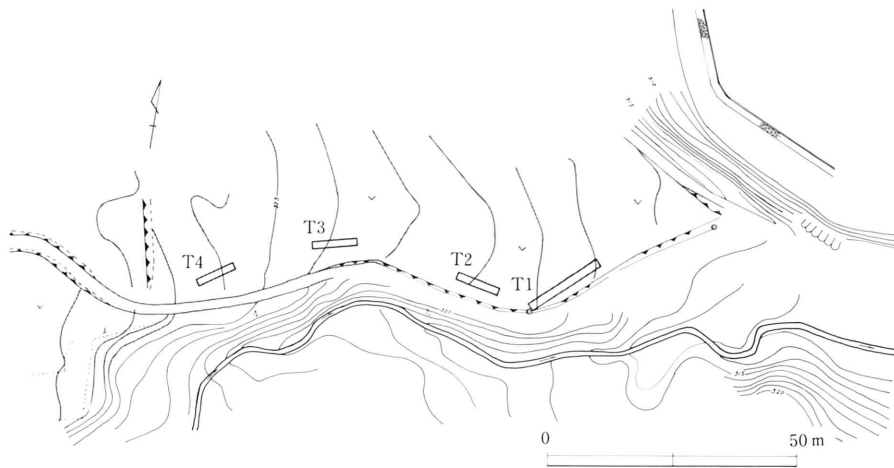
事業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成6年11月14日

遺跡は目名市沢とそれに注ぐ小規模な沢に挟まれた丘陵斜面に位置する。標高320m。調査は事業予定地に沿ってT1～4のトレンチを設定した。T1では2層まで攪乱をうけていたが、その下から縄文時代後期前半の土器が出土した。T2は、畑造成の際に削平されていた。T3では縄文時代前期と思われる胎土に繊維を含んだ土器片が出土した。遺構は、T3で土坑状の落ち込みを確認している。（平成7年度本調査予定）



第41図 目名市遺跡の位置



第42図 目名市遺跡調査区位置図及び出土遺物

5 ふるさと農道整備事業〔紫波中央地区〕関連調査

日詰七久保遺跡 (L E 66-0393)

所在地：紫波郡紫波町日詰七久保地内

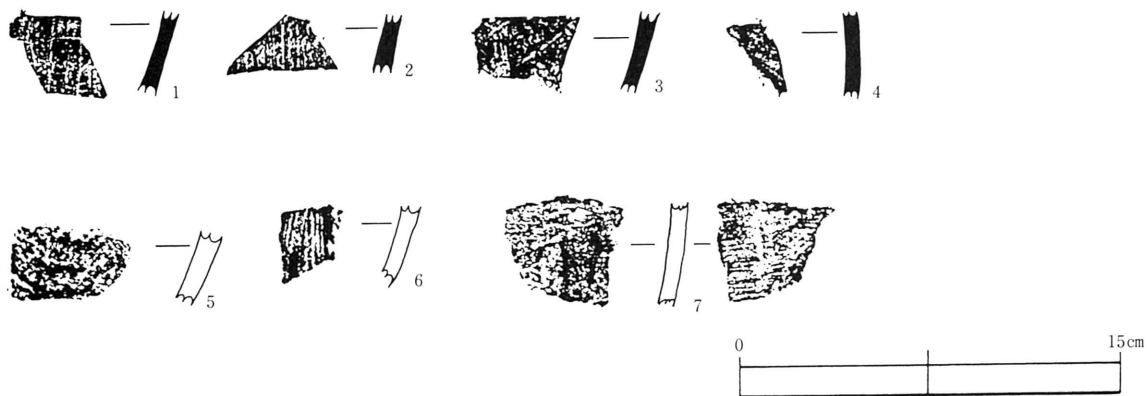
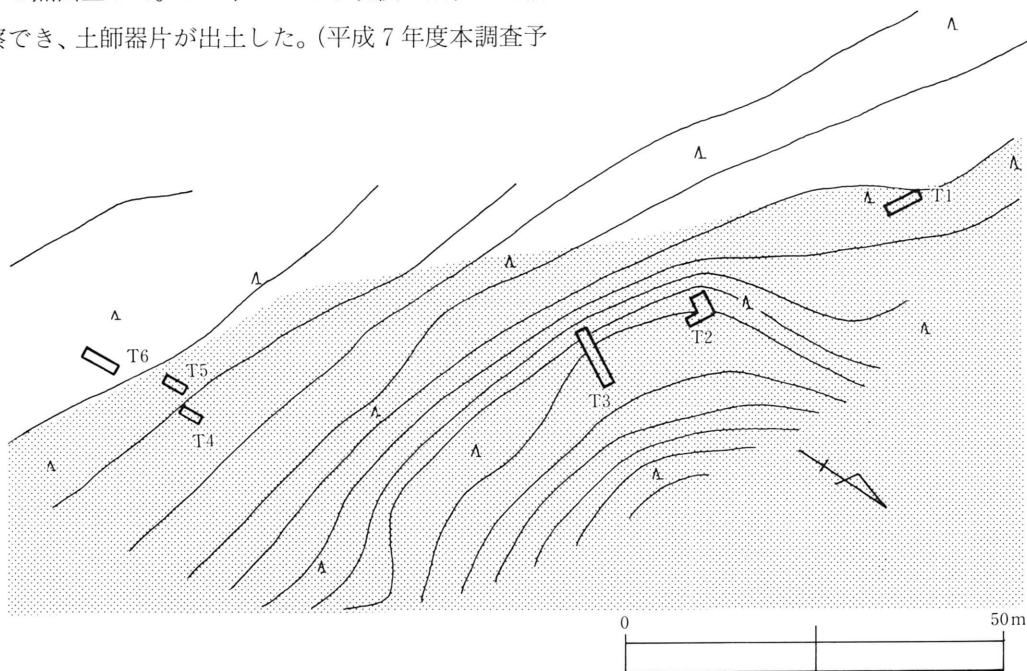
事業者：盛岡南部土地改良事業所

調査期日：平成6年12月22日

遺跡は南側に平坦な水田が広がる段丘の南縁に位置し、比高約10m。事業予定地に沿って、T1～6のトレンチを配置し調査した。段丘縁部にあたるT2では外側に土塁を持つ堀状の遺構が現状で確認できた。この性格を明らかにするため、T3を設置した。ここでは高さ1mの土塁をめぐるし、その内側に幅5m、深さ2mの堀を検出した。埋土は人為的に埋め戻され、埋土中から須恵器片が1点出土した。T4、5でも小規模な堀状の遺構が観察でき、土師器片が出土した。(平成7年度本調査予定)。



第43図 日詰七久保遺跡の位置



第44図 日詰七久保遺跡調査区位置図及び出土遺物

6 畑地帯総合土地改良事業〔藤崎地区〕関連調査

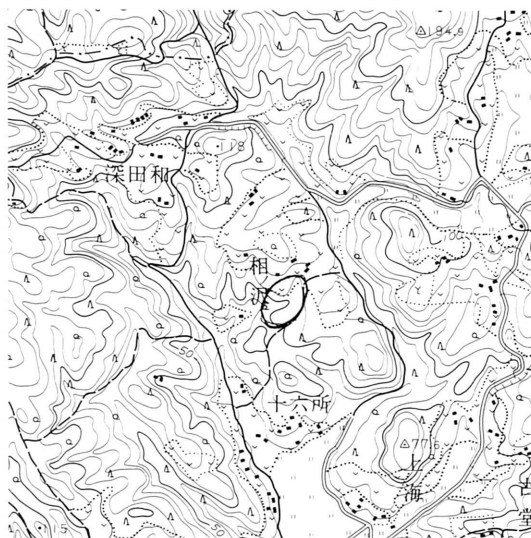
相ノ沢遺跡（OE29-0315）

所在地：東磐井郡藤沢町黄海字深田和地内

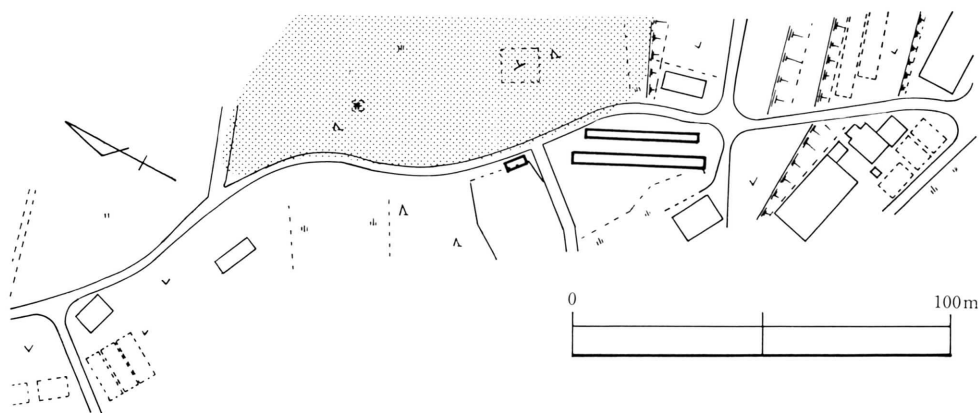
事業者：両磐土地改良事業所

調査期日：平成6年10月20日～21日

藤沢町指定史跡。遺跡はかなり古い段丘面が開析されて形成された丘陵状を呈する地形面に立地する。標高55m。今回の調査地点は、現道の南側の草地を中心に行ったものであるが、この部分では草地造成の際にすでに遺物包含層の大部分が削平され、わずかに混入した剝片1点が出土するに止まった。しかし、道路に面した法面では縄文晩期土器が少量採取された。開田の際にも多量に土器が出土したことから、遺跡の中心は、現在杉林となっている地域の北側と考えられる。この林部分については、立木のため試掘調査ができなかった。また、時代不明の溝状遺構が地表面から確認されたが、立地などから城館等に伴うものではないと判断した。（平成7年度本調査予定）



第45図 相ノ沢遺跡の位置



第46図 相ノ沢遺跡調査区位置図

7 岩手県北農業技術センター建設事業関連調査

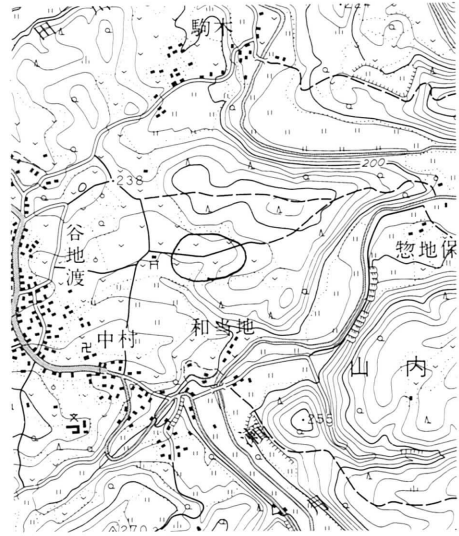
和当地 I 遺跡 (I F82-2012)

所在地：九戸郡軽米町山内字和当地

事業者：岩手県農政部農政企画課

調査期日：平成6年12月5日～6日

今回の調査区は、事業予定地のうち調整池設置部分について実施したものである。調査区は沢の合流点に延びる緩やかな丘陵斜面である。T1～3は過去の造成すでに削平され、斜面下に5層以上の土層が攪乱され堆積していた。頂部付近に土坑が4基確認できた。T4～6では斜面下方で遺物包含層が形成されていた。出土遺物は縄文時代後期T7～12では、遺構・遺物とも確認できなかった。(平成7年度本調査予定)



第47図 和当地 I 遺跡の位置



第48図 和当地 I 遺跡調査区位置図及び出土遺物

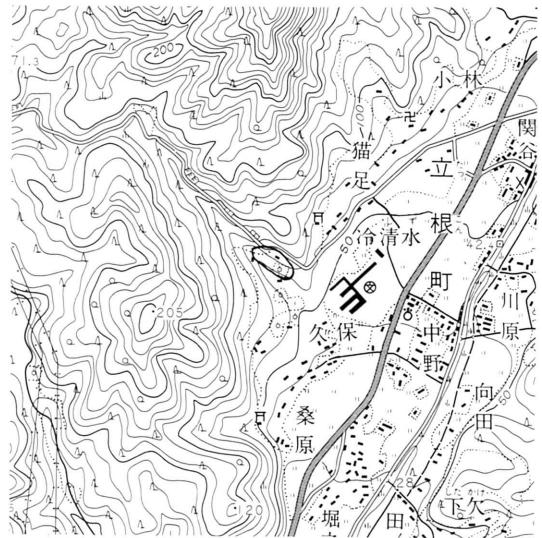
8 大船渡三陸道路建設事業〔大船渡道路〕関連調査
久保遺跡 (N F 29-2052)

所在地：大船渡市立根町久保地内

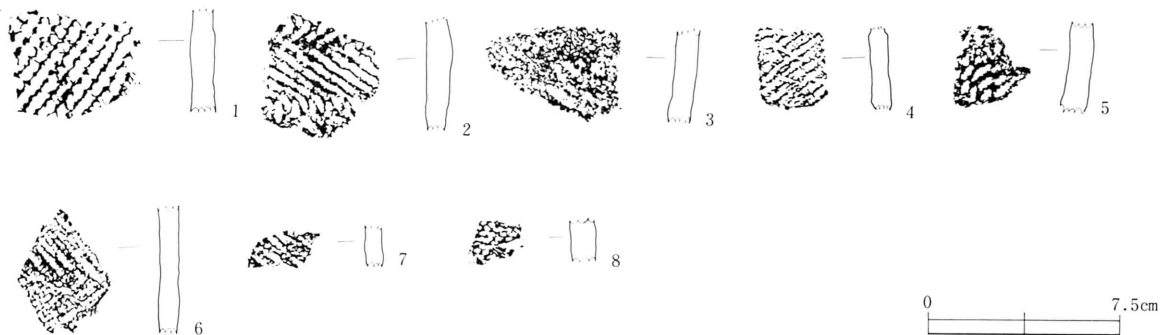
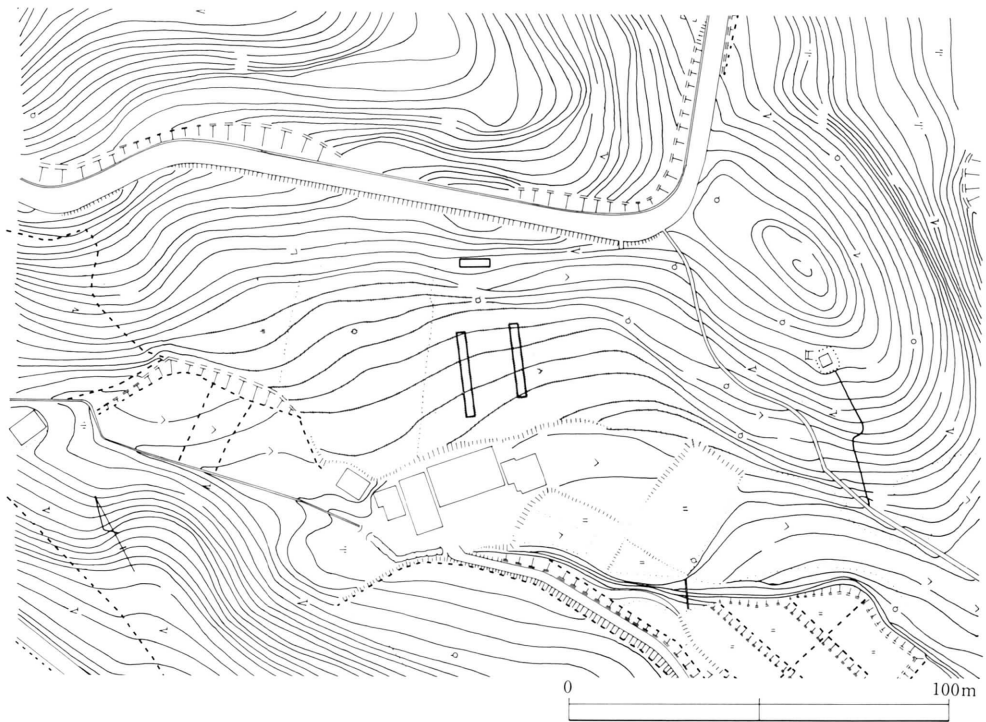
事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所

調査期日：平成6年11月15日

本遺跡は、小河川によって開析されて形成された南西向きの緩斜面に立地する。標高60m前後。現状は草地となっているが、過去に果樹園として利用されていたという。表土下に遺物包含層が2枚認められ、上層は腐食した黒褐色土、下層は崖錐性と考えられる黄褐色土である。これらの境界面に遺物は最も集中している。3層中には焼土も確認された。出土土器は胎土中に繊維を含むもので、縄文時代前期に属する。(平成7年度本調査予定)



第49図 久保遺跡の位置



第50図 久保遺跡調査区位置図及び出土遺物

9 国道4号金田一バイパス関連調査

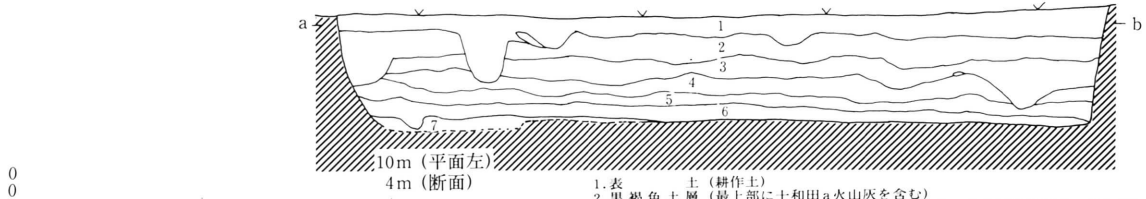
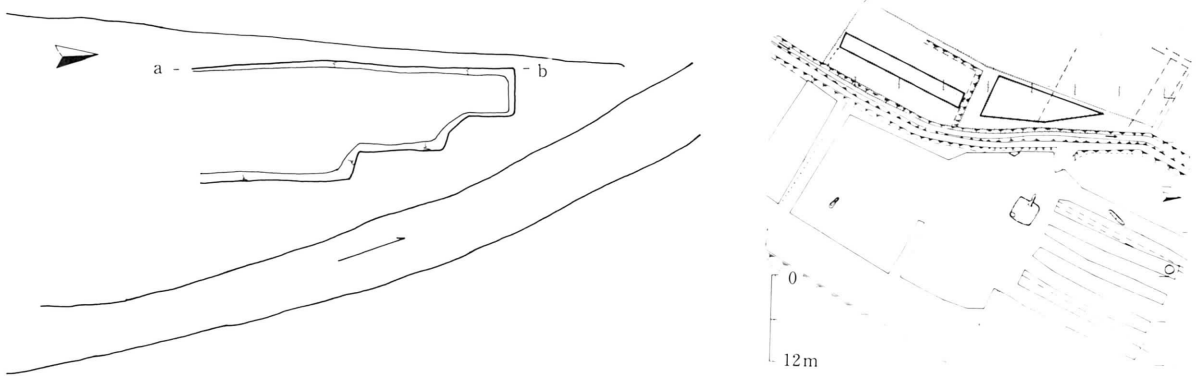
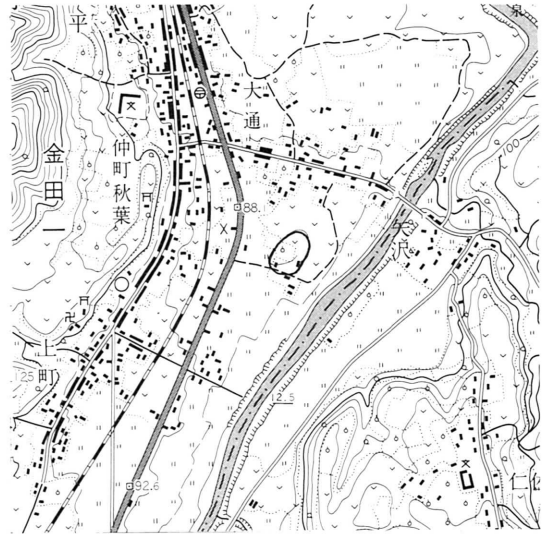
荒田III遺跡 (I F 80-1095)

所在地：二戸市金田一荒田73

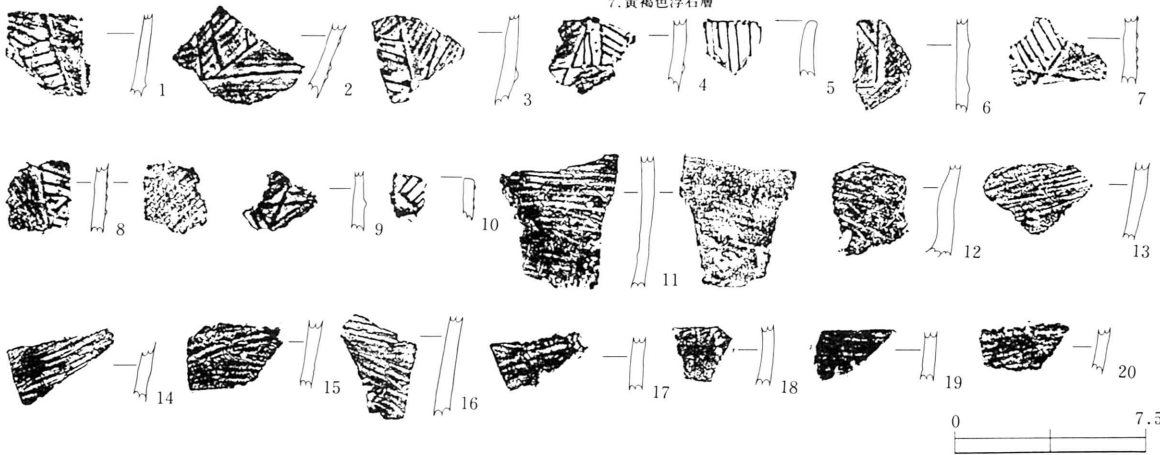
事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成6年7月4日～5日

本遺跡は馬淵川左岸の河岸段丘（沖積段丘）面に立地する。標高87m。今回の調査区東側隣接地は、平成5年度に本調査が終了している。調査区南側はすでに水田造成の際に遺物包含層が削平されていた。北側の畑地部分では中せり浮石層下で縄文時代早期後半の土器・石器が出土している。県内での数少ない出土例である。遺構は検出されなかった。



1. 表土 (耕作土)
2. 黒褐色土層 (最上部に十和田火山灰を含む)
3. 黄褐色土層 (中せりパミス、最下部の一部に白色の火山灰状のブロックあり)
4. 暗褐色土層 (中せりと暗褐色の漸移層、遺物包含層、粘性なし)
5. 暗褐色土層 (粘性あり)
6. 暗褐色土層 (下位の南部浮石層との漸移層)
7. 黄褐色浮石層



第52図 荒田III遺跡調査区位置図及び出土遺物

10 大船渡三陸道路山田道路建設事業関連調査

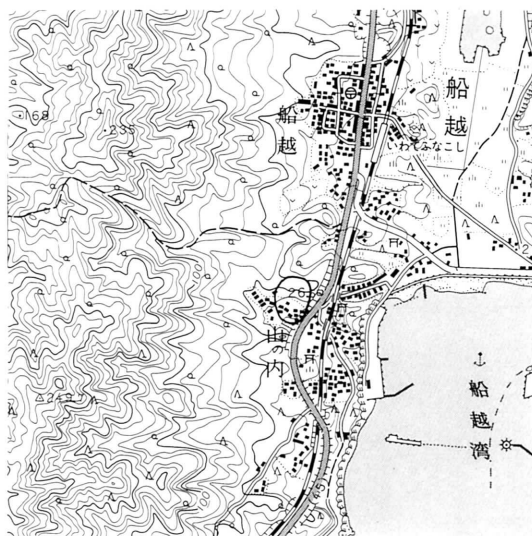
山ノ内II遺跡 (MG14-0230)

所在地：下閉伊郡山田町船越山ノ内

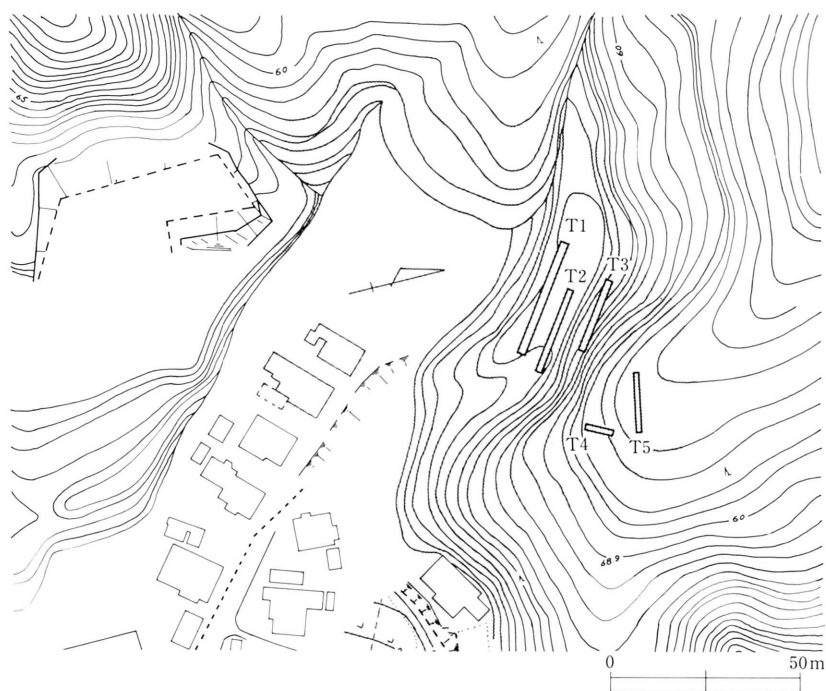
事業者：建設省東北地方建設局三陸国道工事事務所

調査期日：平成6年10月13日

本遺跡は、開析された海岸段丘の南側斜面から沢部にかけて所在する。標高50～60m。今回の調査は事業予定地内にT1～5のトレンチを設定した。T1は沢の影響を受け、角礫・亜角礫が分布し、遺構は確認できなかった。T2では東側に向い土層の厚さが増す。3層下部から4層にかけて縄文土器の小破片が出土した。また、2層から掘りこんだ炭化物・焼土を埋土に含む遺構が確認され、その周辺から鉄滓や錆化した鉄塊が出土した。T3では、中央部で焼土遺構が確認できた。T4・5は分



第53図 山ノ内II遺跡の位置



第54図 山ノ内II遺跡調査区位置図

布調査に基づく遺跡範囲からは外れていたが、伐採材運搬路の断面や地表面から弥生土器片が採集できたため調査を行ったものである。5層まで土層の堆積は薄く、確実な遺構は検出できなかったが、土器片が僅かであるが出土した。(平成7年度本調査予定)

11 国道281号道路改良事業 [明通地区] 関連調査

明通II遺跡 (J F 65-0244)

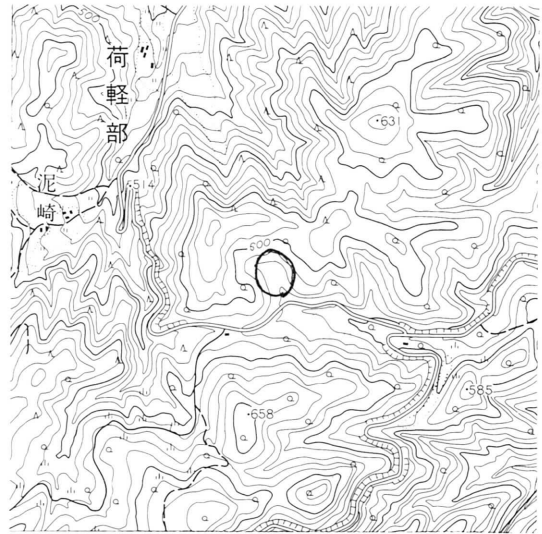
所在地：九戸郡山形村明通地内

事業者：岩手県久慈土木事務所

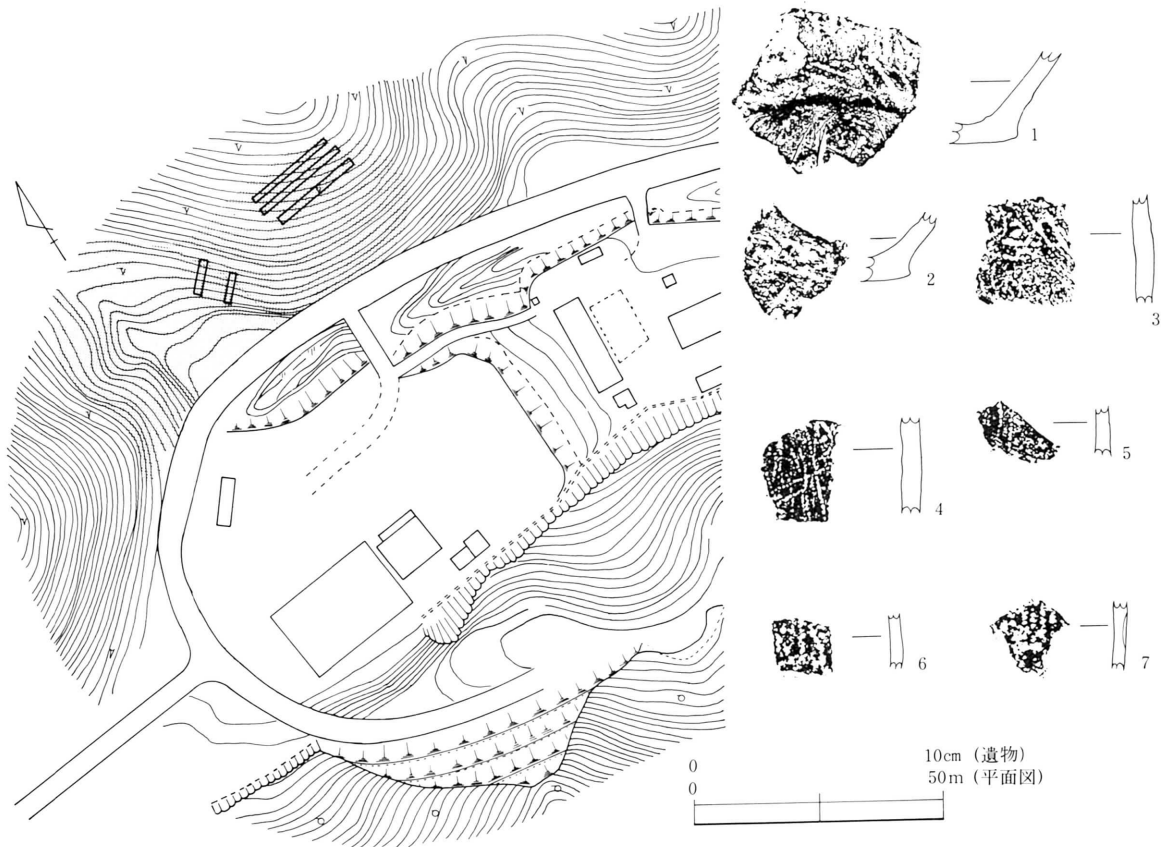
調査期日：平成6年12月20日

遺跡は北上山地中の小規模な沢によって開析された平地およびその両側の斜面に立地する。この地域が国道改良工事にともなって立木が伐採された際に、弥生土器片が採取されたことによって、遺跡であることが確認されたものである。試掘調査はこの小平地の東側丘陵頂部について、おもに遺跡範囲の確認を目的として実施した。現道に面した斜面はかなり急角度であるが、頂部付近では比較的なだらかな部分があり、この部分にトレンチを設定した。

表土を除去した結果、表土下はまもなく地山となり、大きな崖錐礫が多量に混じっていて、遺構等の構築は認められなかった。また遺物等も出土せず、これらの部分について、本調査の範囲から除外可能と考える。なお、平地部および付近の斜面では、腐食土層が未発達で、表土直下に弥生時代後期の土器片が散布している。(平成7年度本調査予定)



第55図 明通II遺跡の位置



第56図 明通II遺跡調査区位置図及び出土遺物

12 県道花巻田瀬線凍雪害防止工事関連調査

中野D遺跡 (ME27-2058)

所在地：花巻市高松8-71地内

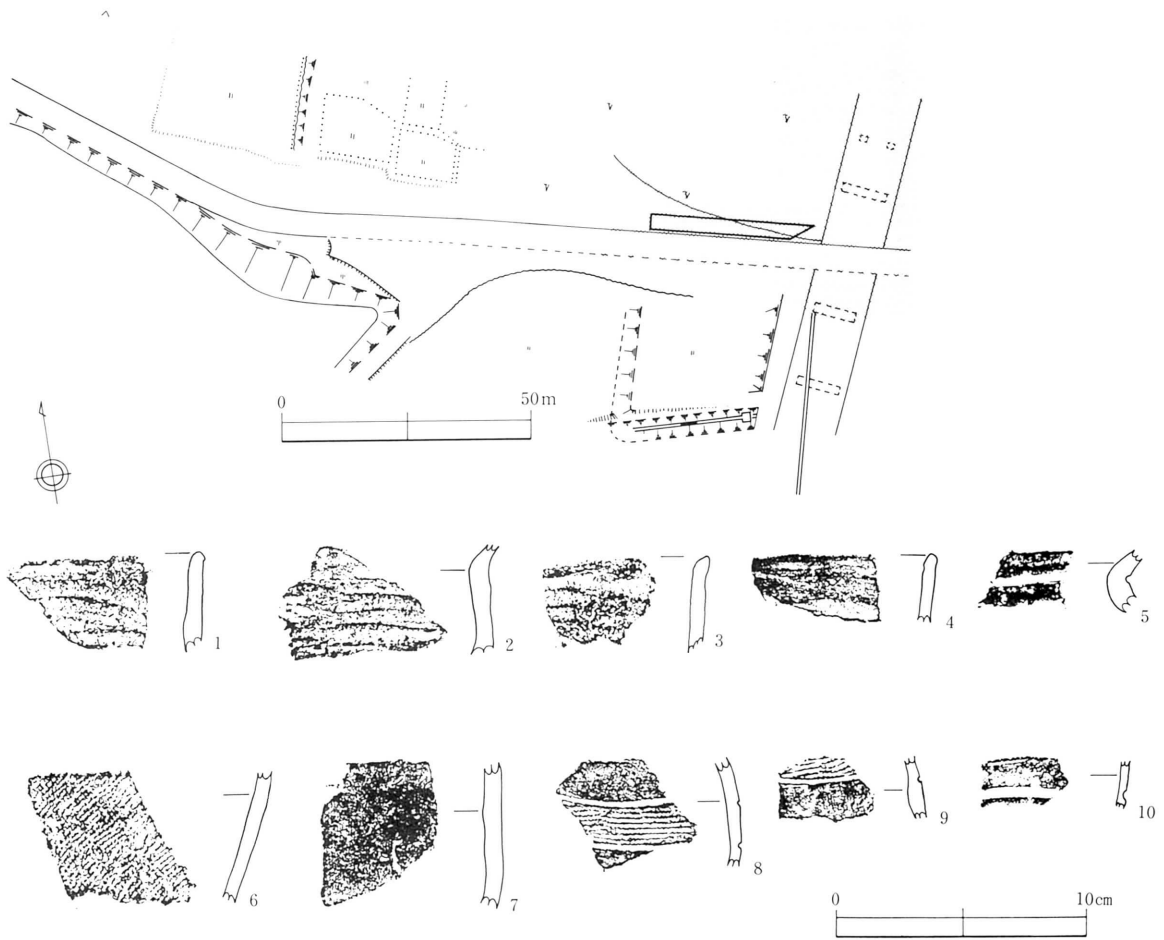
事業者：岩手県花巻土木事務所

調査期日：平成6年11月28日

本遺跡は、猿ヶ石川によって形成された河岸段丘上に立地する。標高85m。今回の調査は平成6年3月に実施した試掘調査の結果確認した遺物包含層(1×10m)について行ったものである。遺物は、表土下第3層の黒褐色土中で確認された。これらの多くは土器の細片であり、全形を知り得るものはないが、弥生時代中期前葉の資料として重要である。遺構等は特段確認されなかった。



第57図 中野A遺跡の位置



第58図 中野A遺跡調査区位置図及び出土遺物

13 県道花泉金成線緊急地方道路整備事業関連調査

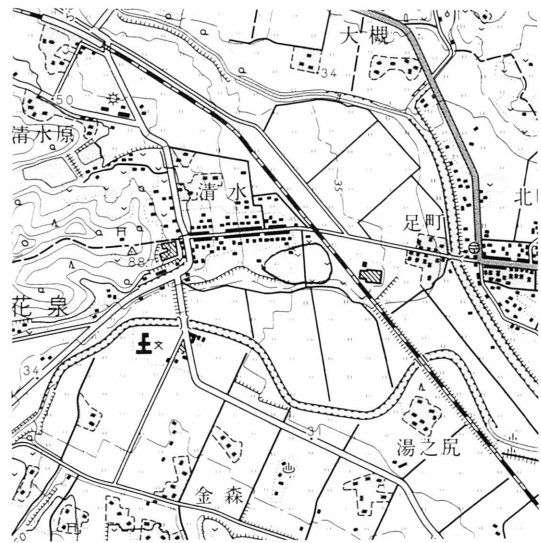
下館銅屋遺跡 (OE27-2111)

所在地：西磐井郡花泉町下館地内

事業者：岩手県一関土木事務所

調査期日：平成6年9月12日～13日

本遺跡は、金流川によって形成された低位段丘上に立地している。標高35m。遺跡周辺はすでに開田が進み、当時の地形を止めていない。遺跡部分は畑地として残されているが、部分的に開田されている。T1・2ではすでに遺構等は削平されていた。3～5ではかなり破壊されているものの、銅または鉄の鍛冶遺構状の落ち込みが検出された。6～10では縄文時代中期ならびに平安時代の竪穴住居跡と、それらに伴う土器・石器等が検出された。(平成7年度本調査予定)



第59図 下館銅屋遺跡の位置



第60図 下館銅屋遺跡調査区位置図及び出土遺物

14 国道343号 [鷹ヶ森地区] 改良工事関連調査

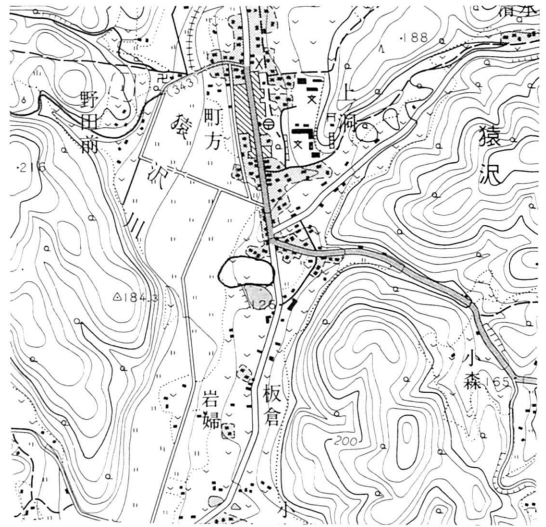
板倉遺跡 (N F 50-2064)

所在地：東磐井郡大東町猿沢字板倉

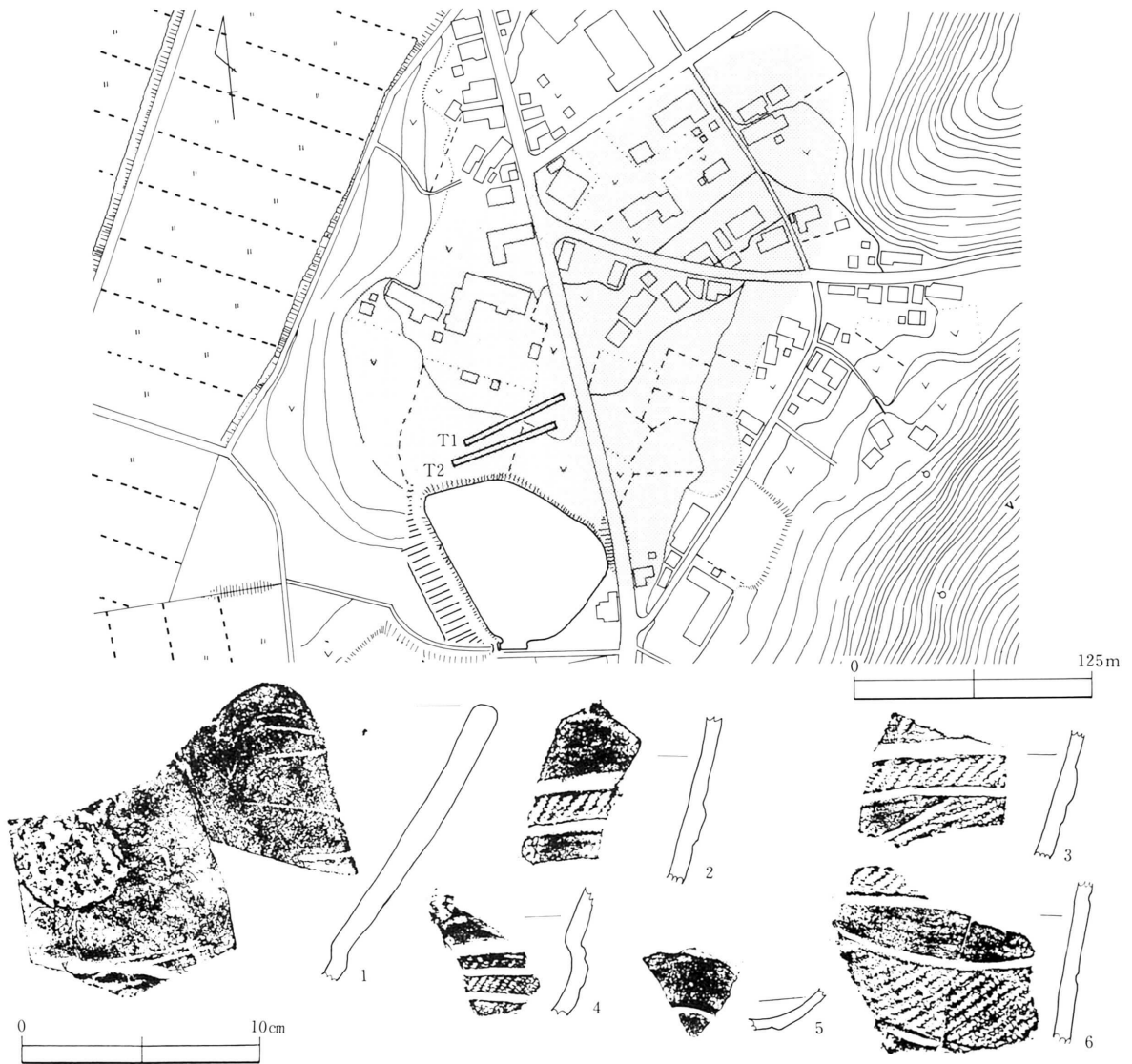
事業者：岩手県千厩土木事務所

調査期日：平成6年11月14日

本遺跡は、猿沢川東岸の小規模な段丘斜面に位置する。標高120m。調査は、事業予定地に沿い二本のトレンチを配置して実施した。両トレンチ北東側は削平されていた。トレンチの西に向かうにつれ、遺物包含層が形成されている。とくにT2では三ヶ所で焼土が検出できた。竪穴住居の炉の可能性が高い。この周辺から、縄文時代後期中葉の土器がまとめて出土している。段丘先端部には若干最近の攪乱が見受けられた。(平成7年度本調査予定)



第61図 板倉遺跡の位置



第62図 板倉遺跡調査区位置図及び出土遺物

15 その他の試掘調査

No	事業名	事業者	遺跡名	所在地	調査期日	備考
1	一関遊水地事業管理用道路	岩手工事事務所	新山権現社	平泉町	4/13	
2	〃	〃	堀切	〃	3/23	
3	国道4号金田一バイパス	〃	上田面II	二戸市	8/25・26	
4	国道4号平泉歩道設置	〃	花立I	平泉町	1/19	慎重工事
5	大船渡三陸道路建設	三陸国道工事務所	丸森I	大船渡市	5/10・11	
6	〃	〃	沢川	〃	5/10・11	
7	〃	〃	桑原	〃	9/20ほか	
8	広域基幹林道芋野線	宮古地方振興局林務部	芋野II	宮古市	10/14	慎重工事
9	かんがい排水事業一方井地区	北部土地改良事業所	黒内IX	岩手町	7/1	
10	ふるさと農道整備事業目名市	〃	上の山I	安代町	7/19	慎重工事
11	〃	〃	上の山II	〃	〃	〃
12	〃	〃	上の山IV	〃	〃	〃
13	広域農道整備事業盛岡西部	〃	KE78-2109	玉山村	10/11	
14	〃	〃	KE78-2137	〃	10/12	慎重工事
15	〃	〃	KE78-1217	〃	11/17	〃
16	農免農道整備事業鳥長根	〃	JE36-0300	浄法寺町	11/10	〃
17	土地改良総合整備大巻地区	南部土地改良事業所	大巻門田	紫波町	11/4	
18	ふるさと農道整備紫波中央	〃	平坊III	〃	12/14	慎重工事
19	担い手育成基盤整備湯本第二	花巻土地改良事業所	ME05-1243	花巻市	6/13	
20	低コスト化水田農業新堀地区	〃	久保III	石鳥谷町	12/9	慎重工事
21	土地改良総合整備太田地区	〃	泉屋敷	花巻市	2/15	〃
22	低コスト化水田農業新堀地区	〃	久保II	石鳥谷町	2/13	設計変更
23	県営ほ場整備事業玉の木地区	胆江土地改良事業所	NE15-0325	水沢市	10/6ほか	
24	ふるさと農道整備鳥長根	遠野地方振興局農政部	MF56-2036	遠野市	12/12・13	設計変更
25	県営ほ場整備事業綾織地区	〃	MF43-2236	〃	10/19ほか	慎重工事
26	県営ほ場整備事業駒木地区	〃	MF25-2241	〃	10/19	〃
27	〃	〃	松崎矢崎	〃	〃	〃
28	〃	〃	上駒木	〃	12/9	〃
29	〃	〃	駒木	〃	12/9ほか	〃
30	〃	〃	MF35-1300	〃	10/18	
31	農免農道整備事業上野地区	二戸土地改良事業所	北館G	一戸町	5/26・27	
32	中山間地域活性化鳥越地区	〃	宮古沢	〃	7/12・13	
33	畜産経営環境整備軽米・九戸	二戸地方振興局農政部	江刺家IV	九戸村	3/16	要再調査
34	綾里川ダム建設事業	岩手県土木部	NG50-0325	三陸町	7/6	
35	県道志和石鳥谷線田屋工区	盛岡土木事務所	中島	紫波町	10/5	
36	〃	〃	小林	〃	11/22	要再調査
37	主要地方道上米内湯沢線川目	〃	田の沢	盛岡市	12/22ほか	
38	〃	〃	LE28-1021	〃	〃	
39	県道花巻田瀬線凍雪害防止	花巻土木事務所	中野D	花巻市	1/18	
40	国道107号藤根地区道路改良	北上土木事務所	ME54-2048	北上市	5/23・24	
41	県道相去飯豊線相去地区改良	〃	和田尻	〃	1/18	慎重工事
42	〃	〃	〃	〃	3/9・10	
43	国道397号交通安全施設	水沢土木事務所	土橋	胆沢町	10/11	慎重工事
44	国道396号交通安全施設	遠野土木事務所	田中	遠野市	12/12・13	
45	国道395号小軽米バイパス	二戸土木事務所	古館跡	軽米町	12/5	
46	〃	〃	小軽米城	〃	〃	慎重工事
47	〃	〃	IF94-0320	〃	〃	〃
48	主要地方道高家名川線道路改良	〃	向高家平I	〃	12/6	
49	北上川上流流域下水道石鳥谷	北上川上流下水道事務所	本館II	花巻市	12/9	
50	盛岡西リサーチパーク	岩手県商工労働部	LE04-2151	滝沢村	12/1・2	慎重工事
51	胆沢病院移転事業	岩手県医療局	龍ヶ馬場	水沢市	11/15	
52	二戸警察署職員宿舎建設	岩手県警察本部	八幡平	二戸市	3/1・2	立会調査
53	県立岩谷堂高校施設整備	県教育委員会財務課	館下	江刺市	9/14	慎重工事
54	県立養護学校高等部建設	〃	LE26-0156	盛岡市	2/10ほか	〃

III 分布調査



第1表 一般県道宮古岩泉線道路築造事業関連遺跡一覧

事業者：宮古土木事務所

調査期日：平成6年4月11日～12日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	L G 23-2215	赤畑	集落跡		縄文・近世	宮古市山口第11地赤畑		
2	-1295		散布地	鉄滓など	〃	〃 〃 〃		赤畑を分割

第2表 主要地方道盛岡環状線、上太田地区道路改良工事関連遺跡一覧

事業者：盛岡土木事務所

調査期日：平成6年5月6日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	L E 15-1160	上太田蝦夷森古墳群	古墳	土師器ほか	古代	盛岡市上太田字森合		

第3表 主要地方道軽米名川線道路改良事業関連遺跡一覧

事業者：二戸土木事務所

調査期日：平成6年5月10日～11日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	I F 62-2013	下野場II	散布地	縄文土器	縄文	軽米町大字晴山字下野場		
2	-2078	笹目IV	〃	〃	〃	〃 〃 字笹目		
3	-2089	苜敷山I	〃	〃	〃	〃 〃 字苜敷山		
4	-2170	〃 III	〃	〃	〃	〃 〃 〃		
5	-2191	〃 V	〃	〃	〃	〃 〃 〃		
6	-2184	〃 IV	〃	〃	〃	〃 〃 〃		
7	I F 72-0230	向高家平I	〃	〃	〃	〃 大字高家字平中		
8	-0263	〃 平中III	〃	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 〃		

第4表 一般国道395号小軽米バイパス道路改良事業遺跡一覧

事業者：二戸土木事務所

調査期日：平成6年5月10日～11日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	I F 84-2299	古館跡	散布地	縄文土器ほか	縄文	軽米町大字小軽米字釜谷原		
2	J F 94-0226	小軽米城	城館跡		〃	〃 〃 字釜谷平		
3	I F 94-0320		〃		中世	〃 〃	新規	

第5表 綾里川ダム建設事業関連遺跡一覧

事業者：岩手県土木部

調査期日：平成6年5月10日～12日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	N G 50-0325		散布地	縄文土器	縄文	三陸町綾里字清水	新規	

第6表 遠野第二ダム建設事業関連遺跡一覧

事業者：岩手県土木部

調査期日：平成6年5月12日～13日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	M F 55-0082	九重沢	散布地	縄文土器	縄文	遠野市遠野町字九重沢		

第7表 主要地方道土米内湯沢線、手代森工区関連遺跡一覧

事業者：盛岡土木事務所

調査期日：平成6年5月20日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	LE28-1021	田の沢	散布地	縄文土器	縄文	福岡市手代森字金堀沢 ～下田の沢	新規	

第8表 担い手育成基盤整備事業赤沢川地区関連遺跡一覧

事業者：岩手県農政部

調査期日：平成6年5月～6月

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	MF55-1357		散布地	土師器	平安	遠野市青笹町	新規	
2	-2357	太田	〃	石皿・土師器	縄文・平安	〃 〃 上青笹		
3	MF56-2081		〃	土師器	奈良・平安	〃 〃 関口	新規	
4	MF66-0024	赤川	〃	縄文土器、石斧	縄文	〃 上郷町板沢字清水川		
5	MF56-2180		〃	縄文土器	〃	〃 〃 板沢	新規	
6	MF66-0167		〃	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 伊原	〃	
7	-0288		〃	縄文土器	縄文	〃 〃 赤沢	〃	
8	-1302		〃	土師器	平安	〃 〃 川原	〃	
9	-1323		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
10	-1394		〃	縄文土器	縄文	〃 〃 甲子	〃	
11	MF67-1040		〃	弥生土器	弥生	〃 〃 〃	〃	
12	-0090		〃	縄文土器	縄文	〃 〃 〃	〃	
13	-1002		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	

第9表 担い手育成基盤整備事業長岡地区関連遺跡一覧

事業者：岩手県農政部

調査期日：平成6年5月～6月

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	LE57-1360	西長岡長谷田	集落跡	土師器・須恵器	奈良・平安	紫波町西長岡字長谷田、 白山		範囲拡大
2	-0329		散布地	土師器	〃	紫波町西長岡	新規	
3	-1311		〃	〃	〃	〃 〃	〃	
4	-1269		〃	〃	〃	〃 犬吠森	〃	
5	-2272		〃	土師器・須恵器	〃	〃 〃 後田	〃	
6	-2295		〃	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 中屋敷	〃	

第10表 一般国道281号明通地区改良事業関連遺跡一覧

事業者：久慈土木事務所

調査期日：平成6年6月23日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	JF45-0243	明通II	散布地	弥生土器	弥生	九戸郡山形村明通地内	新規	

第11表 担い手育成基盤整備事業宮野目地区関連遺跡一覧

事業者：岩手県農政部

調査期日：平成6年6月～7月

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	ME16-0267		散布地	須恵器	平安	花巻市宮野目葛地内	新規	
2	-0386		〃	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 田力地内	〃	
3	-1361	柏葉城跡擬定地	〃		近世	〃 〃 〃	〃	標柱あり
4	-1354		〃	土師器	平安	〃 〃 馬立地内	〃	
5	-1393		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
6	-1387		〃	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 才後地内	〃	
7	ME17-1075		〃	〃 〃	〃 〃	〃 〃 庫理地内	〃	

第12表 一般県道志和石鳥谷線、田屋地区道路改良事業関連遺跡一覧

事業者：盛岡土木事務所

調査期日：平成6年7月28日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	LE66-2043	内川	散布地	須恵器	平安	紫波町土館字関沢		
2	-2087	小林	〃	土師器	〃	〃 〃 〃		
3	LE76-0048	中島	〃	土師器・須恵器	〃	〃 〃 字沖田		

第13表 障害防止対策事業一本木地区関連遺跡一覧

事業者：盛岡地方振興局農政部

調査期日：平成6年7月28日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	KE66-0071	一本木I	散布地	縄文土器	縄文	滝沢村滝沢一本木・留ヶ森		
2	-0081	一本木館	城館跡	土師器	古代	〃 〃 字砂込		

第14表 ふるさと農道緊急整備事業和乙茂地区関連遺跡一覧

事業者：宮古地方振興局農政部

調査期日：平成6年7月13日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	KG52-1044	上乙茂II	散布地	縄文土器	縄文	下閉伊郡岩泉町和乙茂地内		遺跡範囲拡大

第15表 担い手育成基盤整備事業大巻地区関連遺跡一覧

事業者：岩手県農政部

調査期日：平成6年7月14日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	LE77-1234	大巻長沢尻	散布地 城館跡	縄文土器・土師器	縄文・平安	紫波町大巻字白旗		赤川館跡を統合
2	-1205		散布地	縄文土器	縄文	〃 〃 字長沢尻	新規	

第16表 岩手大学宮古臨海研修施設（仮称）関連遺跡一覧

事業者：岩手大学

調査期日：平成6年8月16日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	L G 54-0142	小堀内III	散布地	縄文土器	縄文	宮古市赤前第14地割小堀内		

第17表 築川ダム建設事業関連遺跡一覧

事業者：岩手県土木部

調査期日：平成6年4月～8月

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	L E 28-0232	戸仲	散布地	縄文土器	縄文	盛岡市川目字戸仲		
2	-0263	小屋野	〃	〃	〃	〃 〃 字小屋野		
3	-0376	宇曾沢	〃	〃	〃	〃 〃 字宇曾沢		
4	-0398		〃	土器	〃	〃 〃 字大升沢	新規	一部破壊
5	-1309		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
6	L E 29-2025		〃	縄文土器	〃	〃 〃 字級沢	〃	
7	L E 19-2168	大倉峠一里塚	一里塚	塚1基	近世	〃 築川7-23-2		市指定史跡
8	L E 29-0321	曾利田一里塚	〃	〃	〃	〃 〃 6-40		〃
9	-0325		散布地			〃 〃 字水沢	新規	
10	-1222	沢口II	〃	縄文土器	縄文	〃 〃 字沢口		未確認
11	-2215	下片貝	〃	〃	〃	〃 根田茂字片貝		
12	-2239	ブスノ沢	〃			〃 〃 〃		未確認
13	L E 39-0219		〃	縄文土器	縄文	〃 〃 字細野	新規	
14	-0268		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
15	-0352		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
16	-1324		〃	〃	〃	〃 〃 字高屋敷	〃	
17	-2337		〃	〃	〃	〃 〃 字築場	〃	
18	L E 28-1304		〃	〃	〃	〃 川目	〃	
19	L E 29-2012		〃	〃	〃	〃 〃 字級沢	〃	
20	-1094		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
21	-2015		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
22	-1033		〃	〃	〃	〃 〃 字大升沢	〃	

第18表 主要地方道二戸安代線遺跡一覧

事業者：二戸土木事務所

調査期日：平成6年8月25日～26日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	J E 19-0123	悪戸平 I	集落跡	縄文土器	縄文	一戸町鳥越字悪戸		
2	-0130	合川	散布地	縄文土器ほか	〃	二戸市似鳥合川		
3	J E 18-0396		〃	〃	〃	〃 〃 浅石	新規	
4	-0393		〃	〃	〃	〃 〃 似鳥	〃	

5	-0343	似鳥館	城館跡		中世	〃 〃 〃		範囲移動
6	-0331	似鳥	散布地	縄文土器	縄文	〃 〃 〃		
7	-1320		〃	縄文土器ほか	〃	〃 〃 〃	新規	
8	-1216		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
9	-0291		城館跡		中世	〃 〃 大向	〃	
10	-0199	大向上平	集落跡	縄文土器ほか	縄文	〃 〃 加沢		範囲拡大
11	-1149	大向II	〃	〃	〃	〃 〃 大向		範囲移動
12	-1133		散布地	〃	〃	〃 〃 大築平	新規	
13	-1026		〃	縄文土器	〃	〃 福田外川	〃	
14	-1224		〃	縄文土器ほか	〃	〃 似鳥大向	〃	

第19表 二戸警察署「警察官待機宿舎」建設予定地関連遺跡一覧

事業者：岩手県警察本部

調査期日：平成6年8月25日～26日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	JF00-0053	九戸城跡	城館跡		中・近世	二戸市福岡		国指定史跡
2	-0053	在府小路	集落跡		〃	〃 〃 在府小路		
3	JE09-1318	八幡平	散布地	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 八幡平	新規	
4	-0396	八幡下	〃	縄文土器	縄文	〃 〃 八幡下		

第20表 中山間地域農村活性化総合整備事業陸中なついで地区関連遺跡一覧

事業者：岩手県農政部

調査期日：平成6年8月29日～31日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	JF18-0137	大芦I	集落跡	縄文土器・石器	縄文	久慈市夏井町大芦		範囲拡大
2	-0165	〃 II	集落跡 石碑	〃 石碑	縄文・近世	〃 〃 〃		
3	-0166	〃 III	集落跡	縄文土器	縄文	〃 〃 〃		
4	-0187	〃 IV	〃	〃	〃	〃 〃 〃		範囲拡大
5	-0215	富原II	〃	土器・石器・石棒	〃	〃 〃 21-58		
6	-0221	〃 I	〃	土器	〃	〃 〃 21-70		
7	-1027	川代	〃	縄文土器	〃	〃 〃 川代		
8	-1363	切屋田	〃	〃	〃	〃 〃 切屋田11-27		
9	JF19-1022	国坂	〃	〃	〃	〃 〃 国坂		
10	JF18-1104		散布地	〃	〃	〃 〃 川代	新規	
11	-0291		〃	〃	〃	〃 〃 門ノ沢	〃	
12	-1204		〃	〃	〃	〃 〃 〃	〃	
13	-1337		〃	〃	〃	〃 〃 蟹屋敷	〃	
14	JF19-1024		〃	〃	〃	〃 〃 国坂	〃	

第21表 一般農道整備事業松ヶ沢地区関連遺跡一覧

事業者：岩手県農政部

調査期日：平成6年8月29日～31日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	I F 87-2100		生産遺跡	鉄滓	近世	大野村大野字萩の渡	新規	

第22表 農業農村整備事業鳥海地区関連遺跡一覧

事業者：胆江土地改良事業所

調査期日：平成6年9月

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	N E 06-0045	鳥海柵跡	城柵跡	土師器・須恵器	平安	金ヶ崎町西根原添下		

第23表 一般国道4号渋民バイパス事業関連遺跡一覧

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成6年9月1日～16日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	K E 67-0029					岩手郡玉山村渋民		可能性有り
2	-0121		散布地	縄文土器	縄文	〃 〃 〃		
3	-0122		〃	〃	〃	〃 〃 〃		
4	K E 57-2174		〃	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 〃		範囲拡大
5	-2145		〃	〃 〃	縄文	〃 〃 〃		〃
6	-2114					〃 〃 〃		可能性有り
7	-1196					〃 〃 〃		〃
8	-1184					〃 〃 〃		〃
9	-1164		散布地	土師器	平安	〃 〃 〃	新規	
10	-1125					〃 〃 〃		可能性有り
11	-1107	八幡館	城館跡	縄文土器・陶磁器	縄文・中世	〃 〃 芋田		
12	-0197		散布地	縄文土器	縄文	〃 〃 〃		

第24表 中山間地域農村活性化総合整備事業・新町地区関連遺跡一覧

事業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成6年9月8日～9日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	J E 54-2312	五日市館	城館跡		中世	安代町字五日市		
2	-1286		散布地	縄文土器（後期）	縄文	〃 字谷地田		
3	-2239	有矢野館	城館跡	空堀、縄文土器、土師器	縄文～中世	〃 字上の山		
4	-2266	有矢野	集落跡	縄文土器、土師器	縄文～古代	〃 〃		遺物密集
5	J E 64-0213	上の山X	散布地	縄文土器	縄文	〃 〃		
6	J E 54-2290	〃 VIII	〃	縄文土器・土師器	縄文、古代	〃 〃		
7	J E 64-0129	上の山館	城館・集落跡	縄文土器	縄文、中世	〃 〃		
8	-0234	保戸坂	集落跡	縄文土器、土師器	縄文、古代	〃 字保戸坂		

第25表 かんがい排水事業一方井地区関連遺跡一覧

事業者：岩手北部土地改良事業所

調査期日：平成6年9月8日～9日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	KE06-2392		散布地	土師器	奈良・平安	岩手町一方井水無	新規	
2	KE16-0322	飼鷹II	集落跡	〃	平安	〃 〃 〃		
3	-0362	〃 I	〃	土師器・須恵器	〃	〃 〃 〃		
4	-1302		散布地	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃 〃 今松	新規	

第26表 中山間地域活性化事業若柳西部地区関連遺跡一覧

事業者：胆江土地改良事業所

調査期日：平成6年9月14日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	NE23-0090	鹿合館跡	散布地		中世	胆沢町若柳字鹿合		
2	-1003	上鹿合遺跡	集落跡		縄文	〃 〃 〃		
3	-0095	南中沢遺跡	〃	縄文土器	〃	〃 〃 字南中沢		

第27表 主要地方道大船渡広田陸前高田線改良事業関連遺跡一覧

事業者：大船渡土木事務所

調査期日：平成6年9月19日～20日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	NF78-1048	矢の浦III	散布地	縄文土器・骨貝類	縄文	陸前高田市小友町字矢の浦		範囲拡大

第28表 交通安全施設整備工事一般国道396号関連遺跡一覧

事業者：遠野土木事務所

調査期日：平成6年10月12日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	MF43-2127	田中	散布地	縄文土器・石器	縄文	遠野市綾織町上綾織字田中		範囲拡大

第29表 凍雪害対策工事一般県道土淵達曾部線関連遺跡一覧

事業者：遠野土木事務所

調査期日：平成6年10月12日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	MF14-2100	沢ノ口	散布地	縄文土器・石器	縄文	遠野市附馬牛町東禅寺沢ノ口		
2	-2113	〃 II	〃	縄文土器	〃	〃 〃 〃 〃	新規	

第30表 一般国道343号道路改良事業鳶ヶ森地区関連遺跡一覧

事業者：千厩土木事務所

調査期日：平成6年11月1日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	NE59-2120		城館跡		中世	東山町横沢	新規	可能性あり
2	NF50-2064		散布地	縄文土器・土師器	縄文・平安	大東町猿沢	〃	

第31表 ふるさと農道緊急整備事業鳥居長根地区関連遺跡一覧

事業者：遠野地方振興局農政部

調査期日：平成6年11月10日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	MF56-2036		散布地	縄文土器・石器	縄文	遠野市青笹町鳥居長根	新規	
2	-2165		〃	縄文土器	〃	〃 〃 〃	〃	
3	MF66-0206	瀬内	集落跡	縄文土器・石斧	〃	〃 〃 〃		

第32表 市町村道整備代行事業（一級町道津谷川線）関連遺跡一覧

事業者：千厩土木事務所

調査期日：平成7年1月19日～20日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	OF22-2047					藤沢町保呂羽字平前		可能性あり
2	-2019	上野平	散布地	縄文土器	縄文	〃 〃 字上野平		
3	-1181	要害館B	城館跡	空堀(?)・平場・墓地	中近世	〃 〃 〃		屋敷跡?
4	-1079					〃 〃 字登戸沢		可能性あり
5	-1122	苺萱	散布地	縄文土器・石器・土偶	縄文	〃 〃 字苺萱		再調査予定

第33表 一般国道340号特殊改良（第一種）関連遺跡一覧

事業者：宮古土木事務所

調査期日：平成7年3月9日～10日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	KF68-2318	大沢口II	散布地	縄文土器	縄文	岩泉町浅内字上糸坪		範囲拡大
2	-2304	下川代	〃	〃	〃	〃 〃 字下川代		〃

第34表 中小河川改修事業（岩崎川流域）関連遺跡一覧

事業者：岩手県土木部

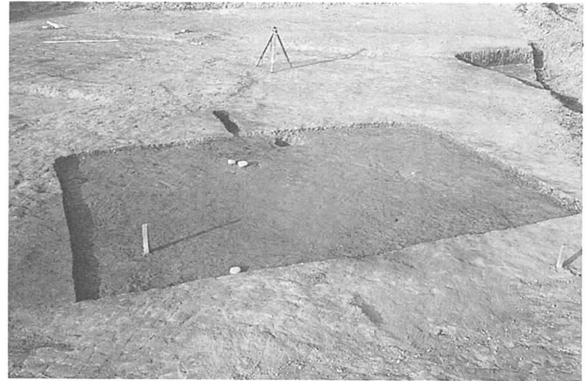
調査期日：平成7年3月 日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	LE47-1084		散布地	土師器	古代	矢巾町大字谷地	新規	
2	LE57-1039	稲村II	〃	〃	〃			
3	-1141	島	〃	〃	〃	矢巾町大字間野野		
4	-1153	高水寺	集落跡	土師器、須恵器	〃	〃 大字高水寺9-45		
5	-2101	稲村I	散布地	〃 〃	〃	紫波町高水寺穴上り		
6	-1088		〃	土師器	〃	矢巾町八幡	新規	
7	-1064		〃	〃	〃	〃 前郷	〃	
8	-1050		〃	〃	〃	〃 鍋屋敷	〃	
9	LE56-1357	古館橋	〃	〃	〃	紫波町古館		

IV 写真図版



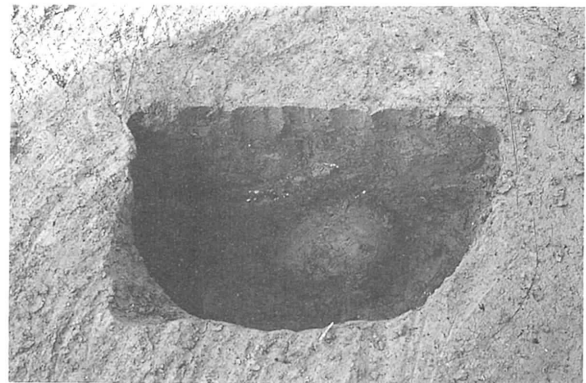
力石II遺跡1号住居跡



力石II遺跡2号住居跡



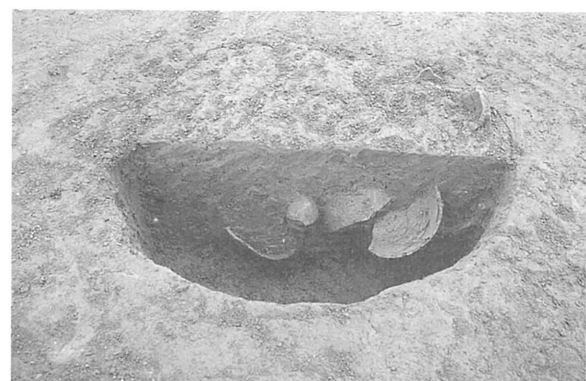
力石II遺跡6号住居跡煙道部



力石II遺跡7号住居跡カマド脇土坑半截

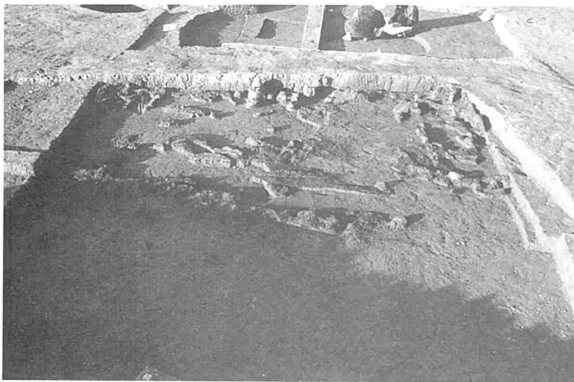


力石II遺跡9号住居跡

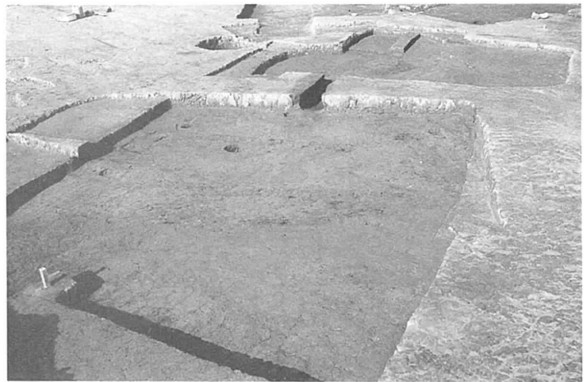


力石II遺跡19号住居跡カマド脇土坑半截

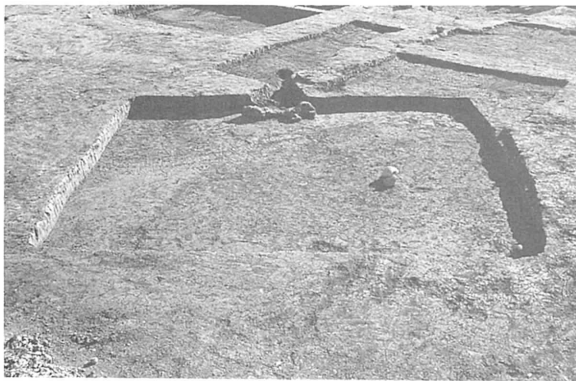
写真図版Ⅰ 力石II遺跡(Ⅰ)



力石Ⅱ遺跡11号住居跡炭化材状況



力石Ⅱ遺跡11号住居跡



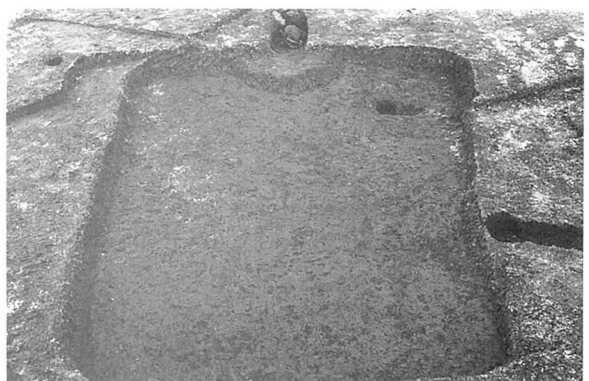
力石Ⅱ遺跡10号住居跡



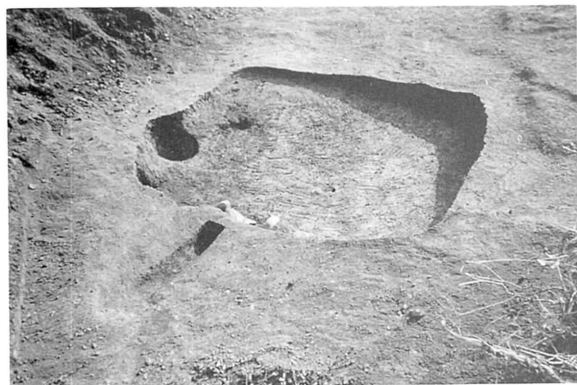
力石Ⅱ遺跡12号住居跡煙道部



力石Ⅱ遺跡15号住居跡



力石Ⅱ遺跡18号住居跡



前稗沢遺跡 1号住居跡



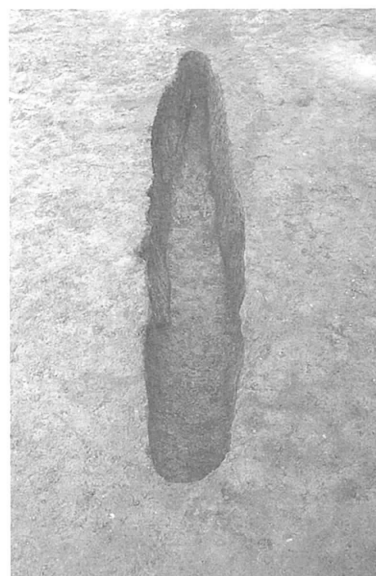
前稗沢遺跡 2号住居跡



菓子IV遺跡基本層序(左), 調査状況(右)



菓子III遺跡調査状況



菓子III遺跡落とし穴

写真図版 3 その他の遺跡



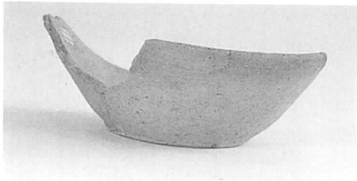
1



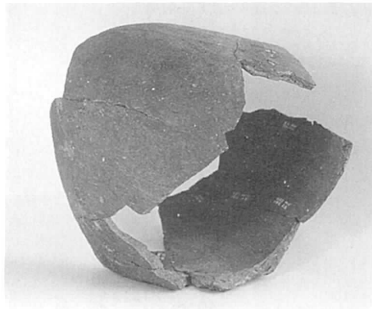
2



3



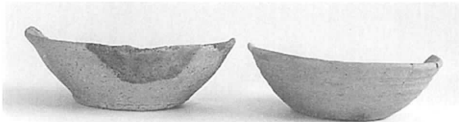
4



6



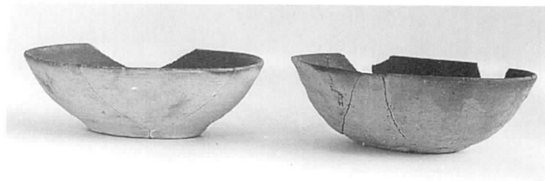
7



5



8



9



10



11

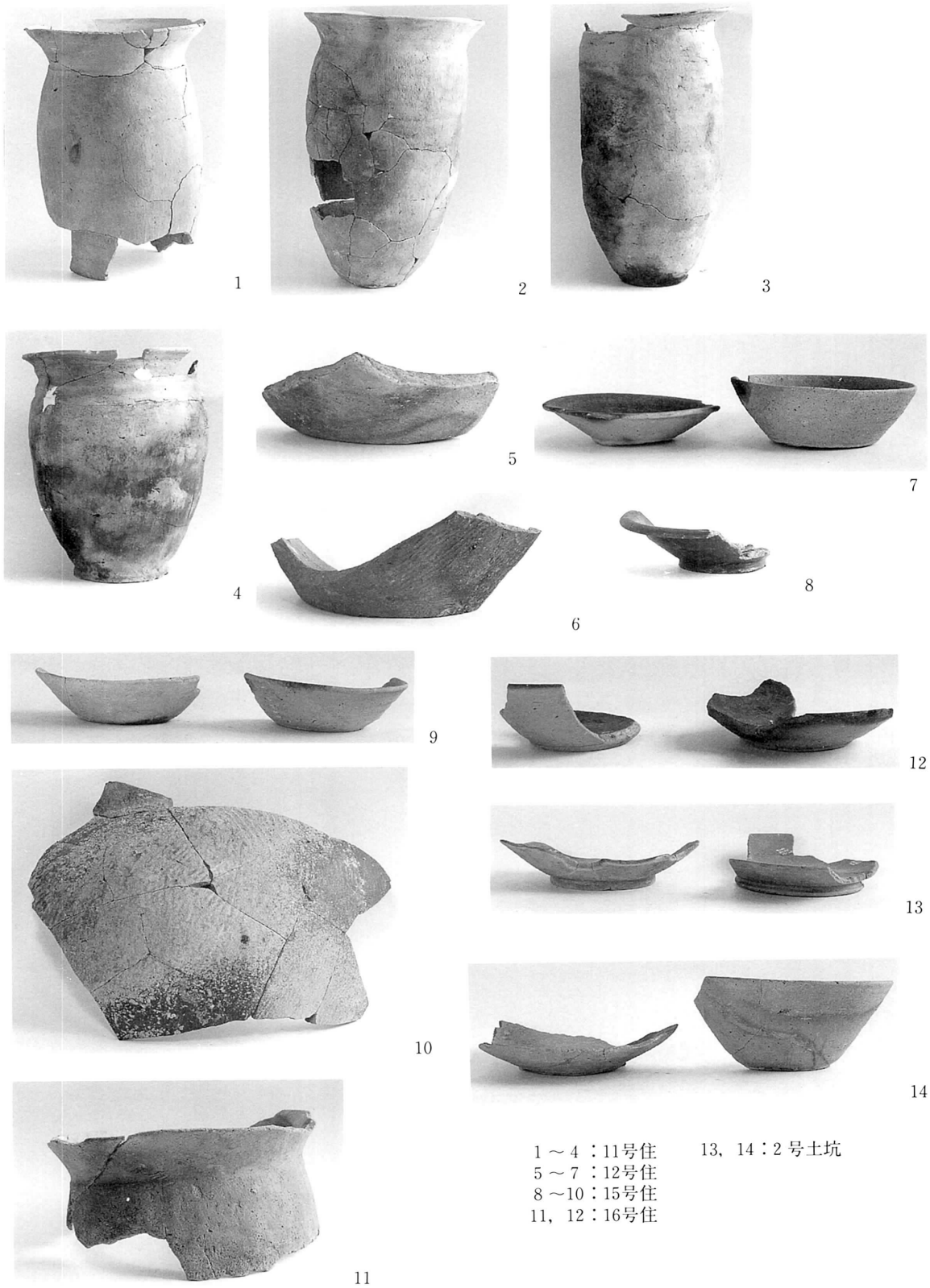


12

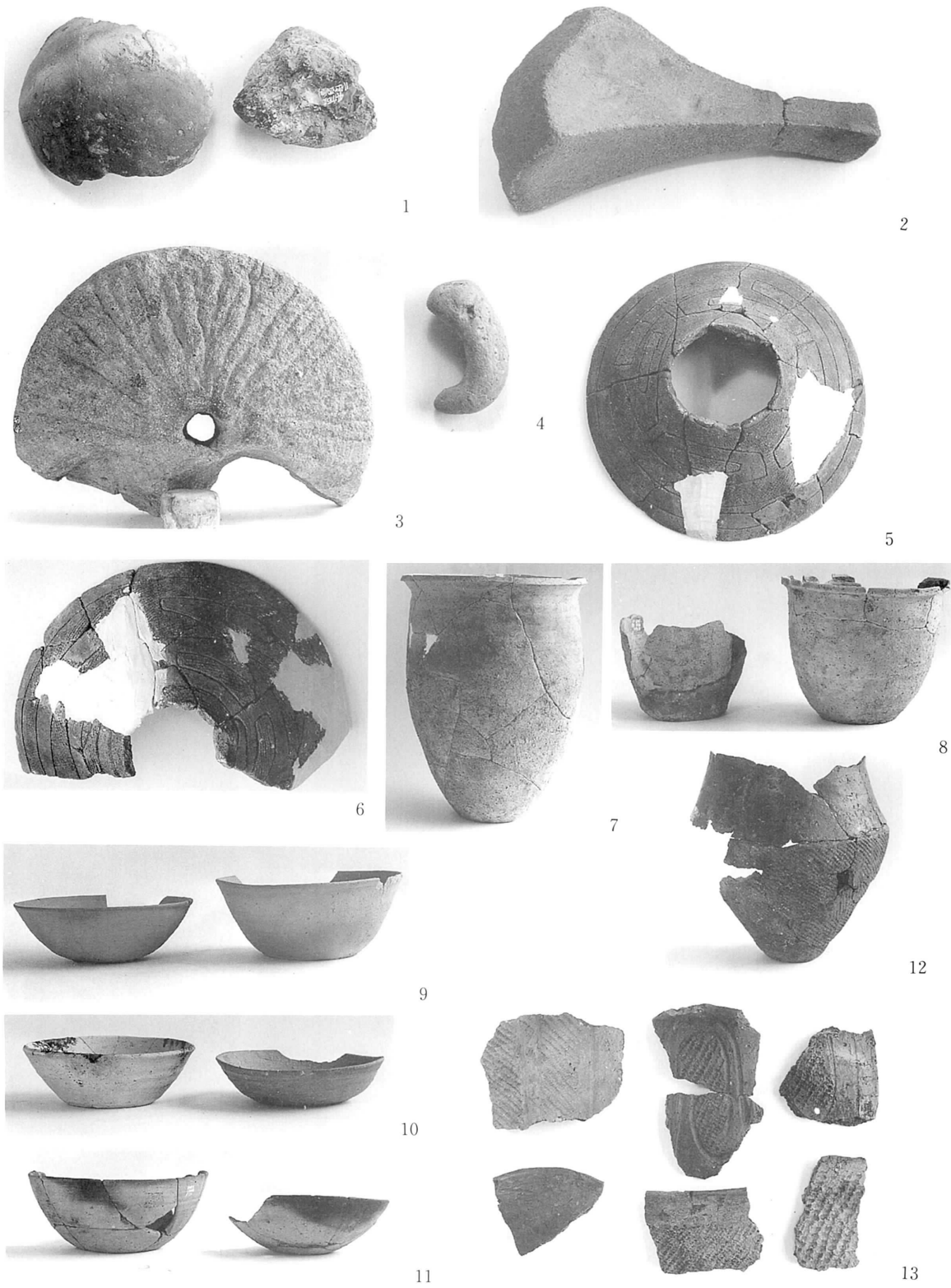


13

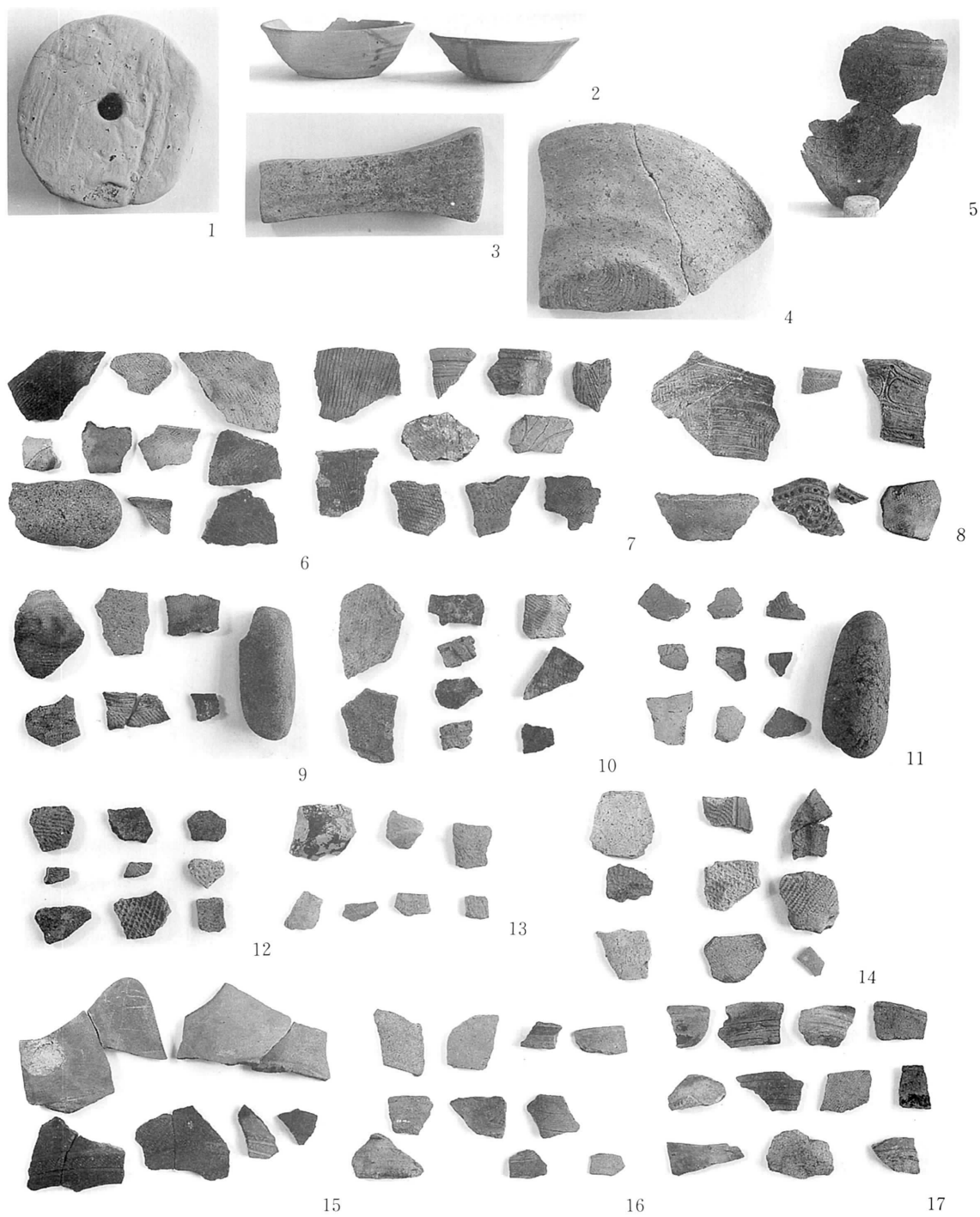
写真図版 4 力石 II 遺跡出土遺物(1) 1:1号住 6.7:7号住 10.12.13:11号住
(縮尺不同) 2~4:2号住 9.11:9号住



写真図版 5 力石II遺跡出土遺物(2) (縮尺不同)



写真図版6 力石II遺跡ほか出土遺物 (縮尺不同) 1.2:力石II11号住 4:力石II10号住 7~11:前稗沢
3:力石II井戸 5.6:力石II 12.13:弓打沢



写真図版 7 中神四日市ほか出土遺物 (縮尺不同)

1~3: 中神四日市 6: 椀ノ木II 8: 間洞II 10: 日名市 12: 久保 14: 下館銅屋 16.17: 中野D
 4.5: 大桜 7: 倍田 9: 和当地I 11: 荒田III 13: 明通II 15: 板倉

岩手県文化財調査報告第97集

岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成6年度)

発行日 平成7年3月

発行 岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10-1

編集 岩手県教育委員会事務局文化課

印刷 (株)杜陵印刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号
